秋田県文化財調査報告書第502集

遺跡詳細分布調査報告書

２０１６・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土
の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

遺跡詳細分布調査報告書

２０１６・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

序

本県には、これまでに発見された約5,000か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、県内道路網や河川の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎資料となるものです。

本報告書は、平成27年度に国庫補助事業として実施した、国道建設事業、河川改修事業及び主要地方道建設事業などに係る遺跡分布調査と遺跡確認調査の結果をまとめたものです。特に、大館工業団地造成事業に伴う片貝家ノ下遺跡の確認調査では、全国的にも例のない火山泥流に覆われた古代家屋の屋根の痕跡を検出するという極めて重要な発見もありました。

報告書をまとめるにあたり、調査に協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成28年３月

秋田県教育委員会

教育長　米　田　　進

例　　言

1　本報告書は、平成27年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。なお、本書収載の報告は平成27年４月から12月までの実施分であり、平成28年１月以降の実施分については来年度に報告する予定である。また、平成27年１月から３月に実施した遺跡分布調査の結果報告を平成26年度補足分として掲載した。

2　本報告書に収載の遺跡分布調査、遺跡確認調査は、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/25,000地形図、1/50,000地形図、1/25,000電子地形図並びに国土交通省・秋田県が作成した平面図を複製した。なお、第３章第１節の地形図には方位記号を付けていないが、全て上が世界測地系第Ｘ系座標北を示している。

4　42ページの写真１は、群馬大学教育学部の早川由起夫教授から提供を受けたものである。

25,000分の１地形図

図 幅 名	発行年月日	挿 図
羽後和田	平成19年２月９日	第2図
横手	平成13年２月１日	第3・11・12図
扇田	平成14年５月１日	第4・22・33図
鷹巣東部	平成14年５月１日	第5図
蓬内台	平成19年８月１日	第6図
湯ノ又	平成19年８月１日	第7図
米内沢	平成14年５月１日	第8図
浅舞	平成15年５月１日	第9・10図
花輪	平成27年５月１日	第13図
椿台	平成15年５月１日	第14図
新波	平成19年１月１月	第15・29図
刈和野	平成19年８月１日	第16図
小安温泉	平成14年６月１日	第17図
大神成	平成27年８月１日	第18図
沖田面	平成14年５月１日	第21図
中滝	平成26年１月１日	第23図

25,000分の１電子地形図

図 幅 名	発 行 年 月 日	挿 図
小安温泉	平成27年１月６日	第24図

50,000分の１地形図

図 幅 名	発 行 年 月 日	挿 図
角館	平成16年６月１日	第19図
横手	平成12年１月１日	第20図

目　次

序
例言 …… ii
目次 …… iii・iv
第１章　はじめに …… 1
第２章　実施要項 …… 1
　第１節　遺跡分布調査 …… 1
　第２節　遺跡確認調査 …… 4
第３章　調査の記録 …… 6
　第１節　遺跡分布調査 …… 6
　　1　平成26年度補足分 …… 6
　　（１）国道13号河辺拡幅 …… 6
　　（２）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区） …… 6
　　（３）大館工業団地造成事業 …… 7
　　2　平成27年度分 …… 7
　　（１）鷹巣大館道路建設事業 …… 7
　　（２）地方道路等整備事業　主要地方道秋田八郎潟線（町村工区） …… 8
　　（３）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道能代五城目線（内川黒土工区） …… 8
　　（４）地方道路等整備事業（建設）　主要地方道鷹巣川井堂川線（杉山田工区） …… 9
　　（５）地方道路交付金事業（改築）　国道107号（大沢工区） …… 9
　　（６）地方道路等整備事業（建設）　一般県道野崎十文字線（五味川工区） …… 10
　　（７）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区） …… 10
　　（８）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道横手東由利線 …… 11
　　（９）地方街路交付金事業　３.４.９号久保田古館線 …… 11
　　（10）地方道路等整備事業（建設）　一般国道342号（手倉工区） …… 12
　　（11）雄物川中流部河川改修工事（新波新町地区） …… 12
　　（12）雄物川上流河川河道掘削事業（福部羅地区・強首地区） …… 13
　　（13）成瀬ダム建設事業 …… 14
　　（14）田沢二期農業水利事業（栗沢サイホン） …… 14
　　（15）田沢二期農業水利事業 …… 15
　　（16）横手西部農業水利事業 …… 16
　　（17）米代東部森林管理署上小阿仁署新築工事 …… 16
　　（18）大館工業団地造成事業 …… 17
　　（19）草地畜産基盤整備事業（草地整備型）公共牧場整備事業鹿角東部地区 …… 17

第２節　遺跡確認調査 …… 18
　１　成瀬ダム建設事業 …… 18
　　トクラ遺跡 …… 18
　２　雄物川中流部河川改修工事 …… 24
　　新波遺跡 …… 24
　３　大館工業団地造成事業 …… 30
　　片貝家ノ下遺跡 …… 30
報告書抄録 …… 47

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成27年１月～３月に実施した平成26年度の補足分は、秋田県産業労働部による大館工業団地造成事業等に係る試掘調査３件である。平成27年４月～12月には、国土交通省を事業者とする鷹巣大館道路建設事業、雄物川中流部河川改修工事、成瀬ダム建設事業等、農林水産省関連の田沢二期農業水利事業、横手西部農業水利事業等、また、秋田県建設部による主要地方道建設事業等に係る踏査・試掘調査19件と、大館工業団地造成事業に係る遺跡確認調査等３件を実施した。調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員が、地元教育委員会の協力を得て実施した。

第２章　実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

（１）計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

（２）確認された遺跡は地図に記入する。

（３）遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者　秋田県教育委員会

４　調査担当者　秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

主任学芸主事	磯村　亨
副　主　幹	宇田川浩一（平成27年３月まで）
学 芸 主 事	齊藤　和明
学 芸 主 事	伊藤　武
学 芸 主 事	袴田　道郎
文化財主査	加藤　竜
文化財主査	加藤　朋夏（平成27年３月まで）
文化財主事	髙橋　和成

※調査に当たっては以下の各教育委員会の方々に御協力いただいた。

鹿角市教育委員会	藤井　安正	鹿角市教育委員会	赤坂　朋美
鹿角市教育委員会	工藤　海	大館市教育委員会	嶋影　壮憲
北秋田市教育委員会	榎本　剛治	横手市教育委員会	島田　祐悦
東成瀬村教育委員会	後藤　和樹		

５　調査対象地域及び事業名

※平成26年度補足分（平成27年１月～３月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省	国道13号河辺拡幅	秋田市	３月３日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
2	建　設　部	地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）	横手市	３月26日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
3	産業労働部	大館工業団地造成事業	大館市	３月４日～５日	試掘	事業地内で新たな遺跡１か所（片貝家ノ下遺跡）を発見した。

※平成27年度分（平成27年４月～12月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省	鷹巣大館道路建設事業	北秋田市	４月27日	試掘	事業地内で周知の遺跡１か所（藤株遺跡）を確認した。
2	建　設　部	地方道路等整備事業　主要地方道秋田八郎潟線（町村工区）	五城目町	５月14日～15日 11月12日～13日	試掘	事業地内で新たな遺跡２か所（町村Ⅱ遺跡、町村Ⅲ遺跡）を発見した。
3	建　設　部	地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道能代五城目線（内川黒土工区）	五城目町	５月29日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
4	建　設　部	地方道路等整備事業（建設）主要地方道鷹巣川井堂川線（杉山田工区）	北秋田市	６月18日～19日 ７月２日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
5	建　設　部	地方道路交付金事業（改築）国道107号（大沢工区）	横手市	７月17日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
6	建　設　部	地方道路等整備事業（建設）一般県道野崎十文字線（五味川工区）	横手市	９月３日 12月９日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
7	建　設　部	地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）	横手市	10月19日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
8	建　設　部	地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道横手東由利線	横手市	11月16日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
9	建　設　部	地方街路交付金事業 ３．４．９号久保田古館線	鹿角市	11月20日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
10	建　設　部	地方道路等整備事業（建設）一般国道342号（手倉工区）	東成瀬村	12月15日～16日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
11	国土交通省	雄物川中流部河川改修工事（新波新町地区）	秋田市	11月20日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
12	国土交通省	雄物川上流河川河道掘削事業（福部羅地区・強首地区）	大仙市	11月13日 12月９日～10日 12月24日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１か所（大谷地遺跡）を確認した。
13	国土交通省	成瀬ダム建設事業	東成瀬村	11月16日～18日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
14	農林水産省	田沢二期農業水利事業（栗沢サイホン）	大仙市	11月18日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
15	農林水産省	田沢二期農業水利事業	仙北市 大仙市	６月25日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
16	農林水産省	横手西部農業水利事業	横手市	６月25日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。
17	農林水産省	米代東部森林管理署上小阿仁署新築工事	上小阿仁村	９月８日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
18	産業労働部	大館工業団地造成事業	大館市	５月20日～21日	試掘	事業地内で周知の遺跡1か所（片貝家ノ下遺跡）を確認した。
19	農林水産部	草地畜産基盤整備事業（草地整備型）　公共牧場整備事業鹿角東部地区	鹿角市	７月６日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

※平成26年度補足分工事立会（平成27年１月～３月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	立会期間	立会結果	備　　考
1	地方独立行政法人秋田県立病院機構	県立脳血管研究センター医療提供体制整備事業	秋田市	１月26日 ２月２日	遺構・遺物は確認できなかった。	久保田城跡
2	秋田県教育庁総務課施設整備室	秋田工業高等学校改築事業	秋田市	２月23日	遺構・遺物は確認できなかった。	一ノ坪条里制遺構

※平成27年度工事立会（平成27年４月～12月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	立会期間	立会結果	備　　考
1	国土交通省	大館鷹巣道路建設事業	北秋田市	６月19日	遺構・遺物は確認できなかった。	藤株遺跡
2	建　設　部	地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）	横手市	10月19日	遺構・遺物は確認できなかった。	条里制跡
3	国土交通省	雄物川中流部河川改修工事	秋田市	11月16日	遺構・遺物は確認できなかった。	新波遺跡
4	地方独立行政法人秋田県立病院機構	県立脳血管研究センター医療提供体制整備事業	秋田市	６月９日 ７月９日 ７月14日 11月10日 11月17日 11月24日	遺構・遺物は確認できなかった。	久保田城跡

第２節　遺跡確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採集及び小規模の発掘調査(遺構確認面までの掘り下げ)を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２　調査の方法

（１）地形を考慮したトレンチ及び試掘坑を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、できる限り面的に調査範囲を広げてその確認に努める。

（２）確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さ等は、実測図等により記録する。
また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況等は写真撮影をする。

（３）使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

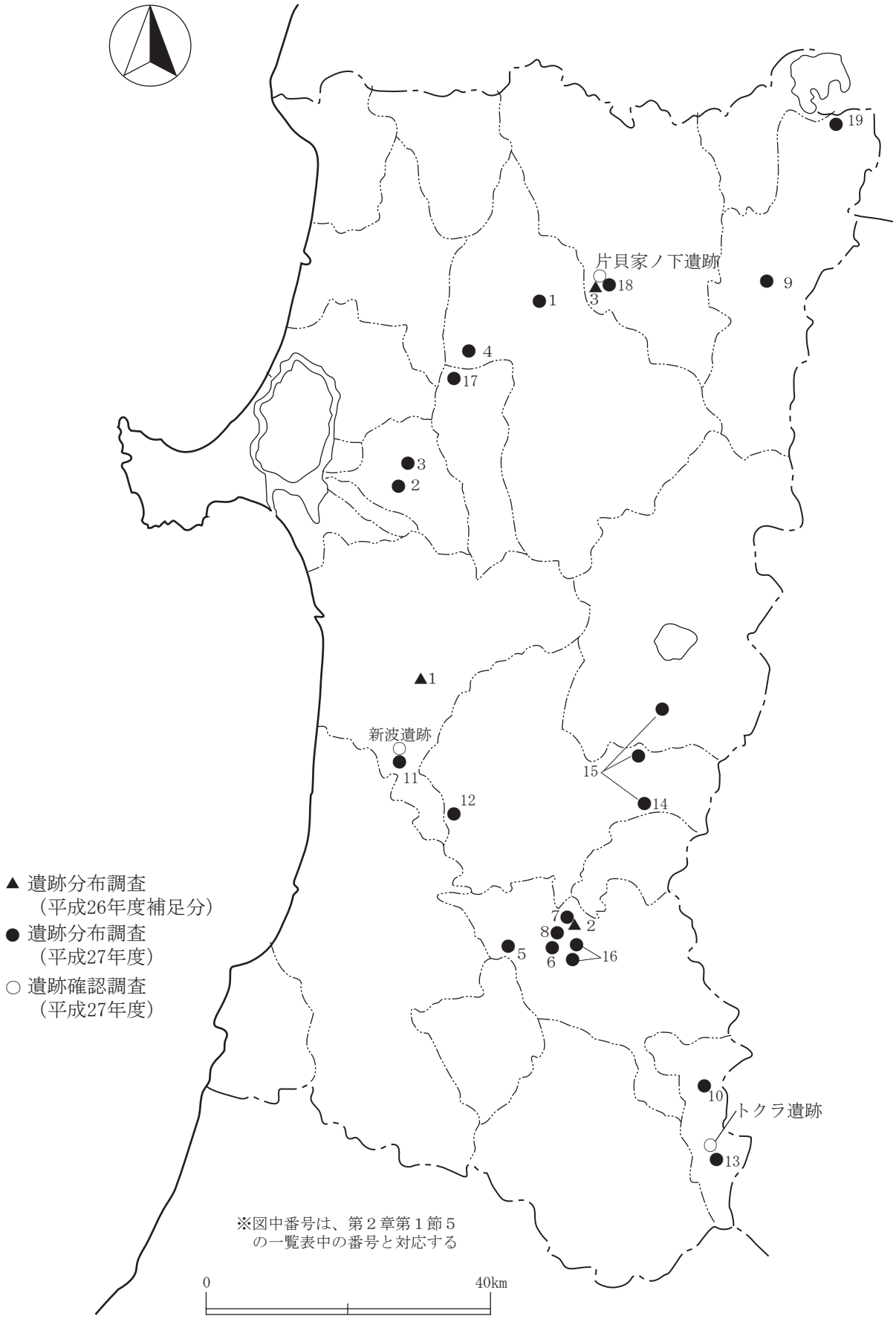
４　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター

副　　主　　幹　　村上　義直
学　芸　主　事　　山村　　剛
文 化 財 主 査　　加藤　朋夏
文 化 財 主 任　　山田　祐子
文 化 財 主 事　　伊豆　俊祐
文 化 財 主 事　　赤星　純平

５　調査対象遺跡及び事業名

No.	事　業　名	遺　跡　名（所在地）	調　査　期　間	担 当 者
1	成瀬ダム建設事業	トクラ遺跡（東成瀬村）	平成 27 年 6 月 1 日～ 6 月 12 日	伊豆・赤星
2	雄物川中流部河川改修工事	新波遺跡（秋田市）	平成 27 年 11 月 5 日～ 11 月 13 日	山村・加藤
3	大館工業団地造成事業	片貝家ノ下遺跡（大館市）	平成 27 年 9 月 29 日～ 11 月 24 日	村上・山田



第１図　遺跡分布調査・遺跡確認調査地点図

第３章　調査の記録

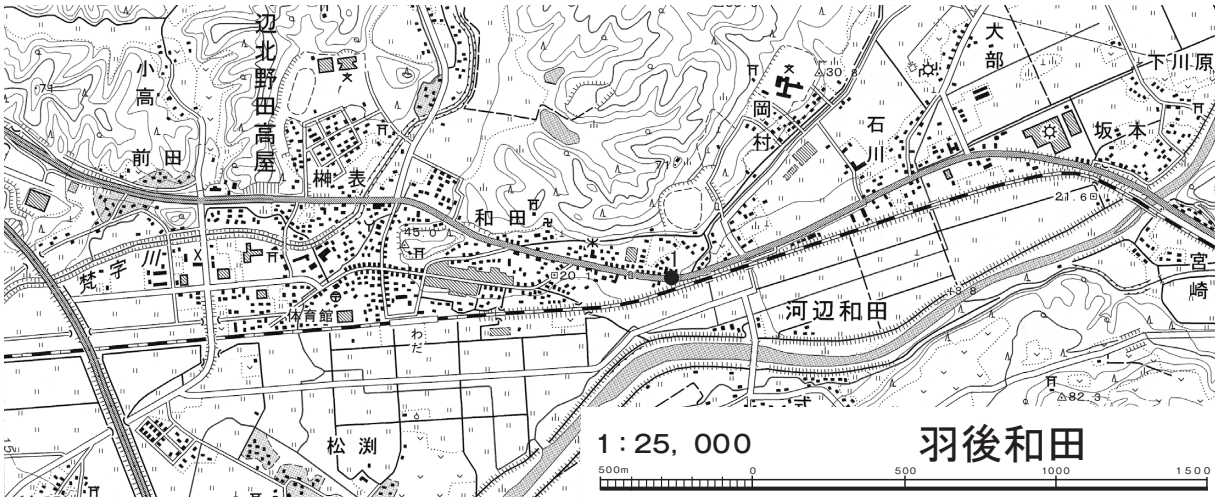
第１節　遺跡分布調査

１　平成26年度補足分

（１）国道13号河辺拡幅

事業予定地のうち、中心杭No.151～179の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市河辺和田	・・	水田	なし	

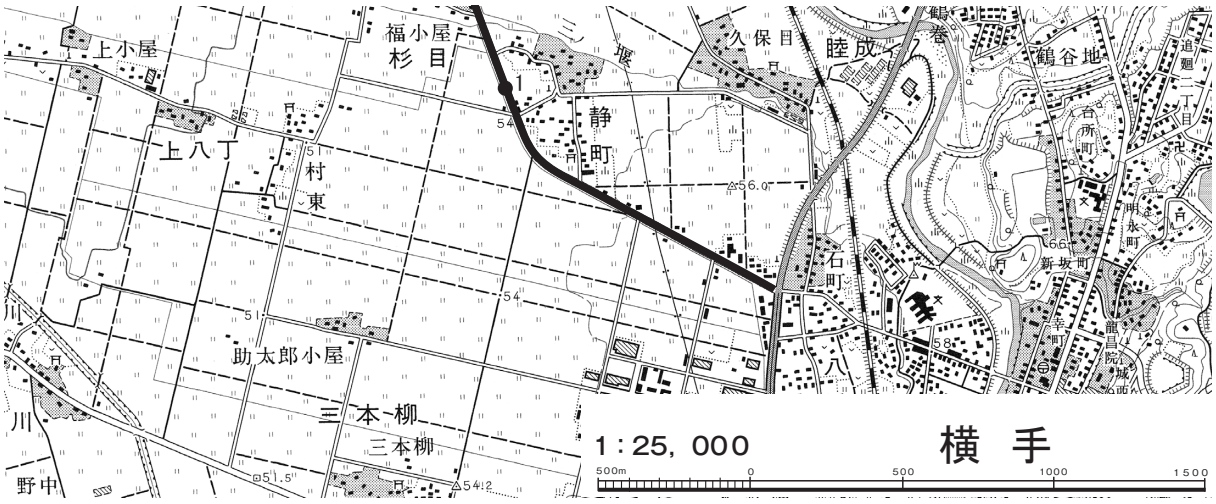


第２図　国道13号河辺拡幅　遺跡分布調査位置図

（２）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）

事業予定地のうち、中心杭No.14～34について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、工事立会での対応とした。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	条里制跡	横手市静町	古代	水田	なし	周知の遺跡

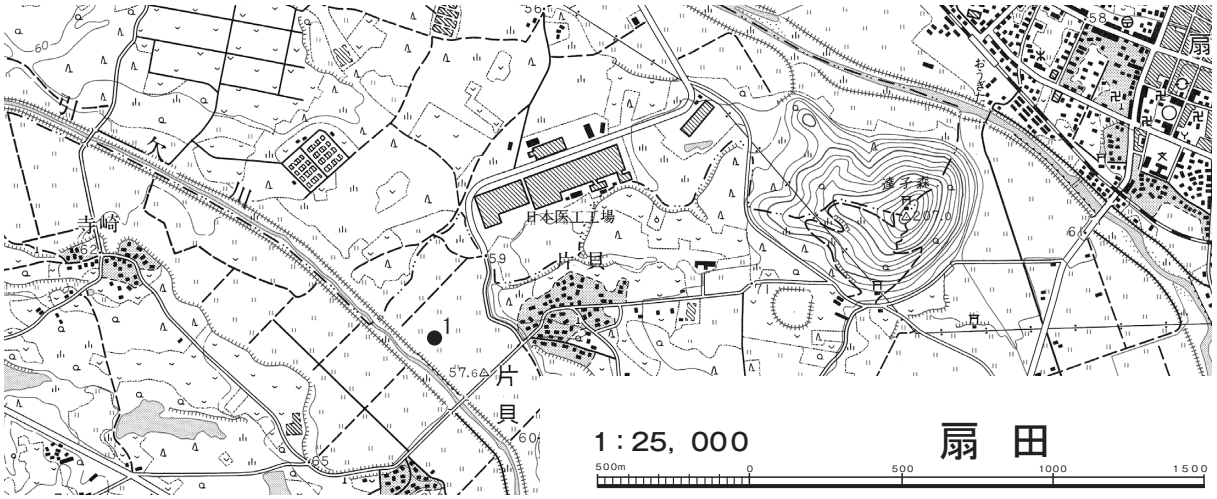


第３図　地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）　遺跡分布調査位置図

（３）大館工業団地造成事業

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、新発見の遺跡１か所が事業に係ることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	片貝家ノ下遺跡	大館市比内	古代	水田	柱穴・土師器	新発見の遺跡



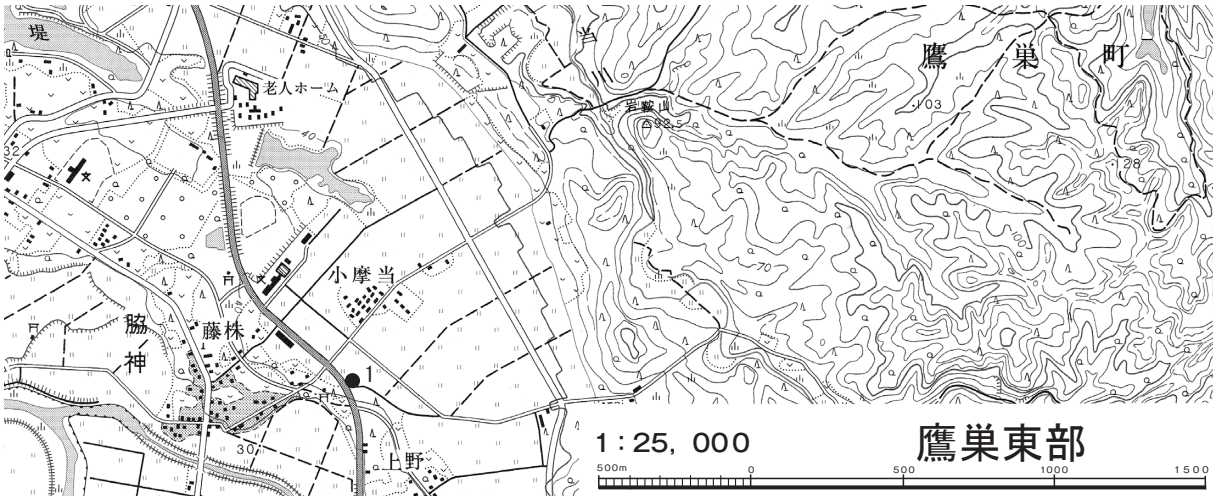
第４図　大館工業団地造成事業　遺跡分布調査位置図

２　平成27年度分

（１）鷹巣大館道路建設事業

鷹巣大館道路建設に伴い、路高が下がる国道105号へ農道をすり付ける事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、事業面積が狭小であることから工事立会での対応とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	藤株遺跡	北秋田市脇神字藤株	・・	道路	なし	

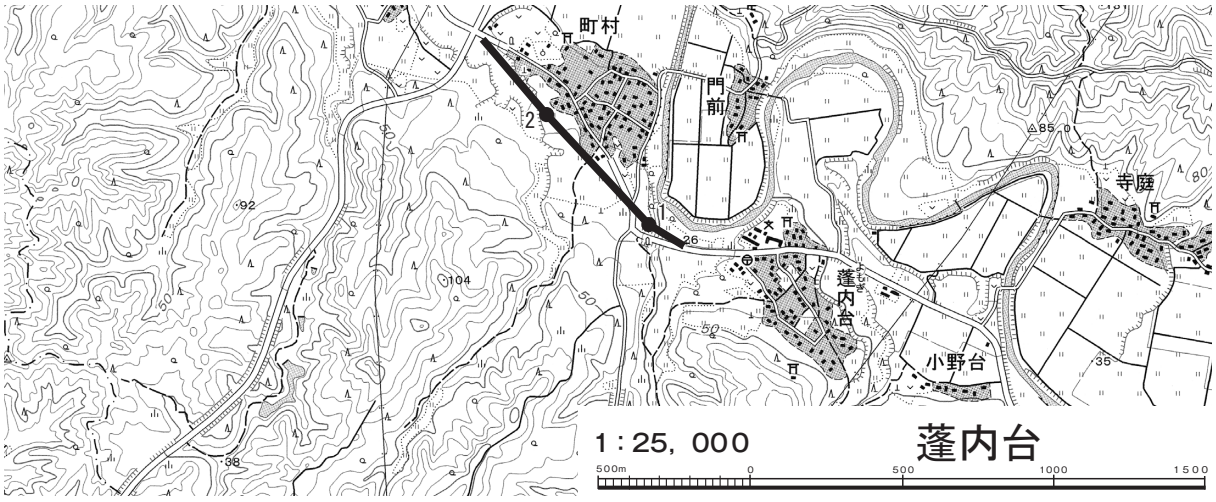


第５図　鷹巣大館道路建設事業　遺跡分布調査位置図

（２）地方道路等整備事業　主要地方道秋田八郎潟線（町村工区）

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、新発見の遺跡２か所が事業に係ることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	町村Ⅱ遺跡	南秋田郡五城目町馬場目	縄文	荒地・畑	土坑・剝片	新発見の遺跡
2	町村Ⅲ遺跡	南秋田郡五城目町馬場目	縄文	畑・林	溝跡・縄文土器	新発見の遺跡

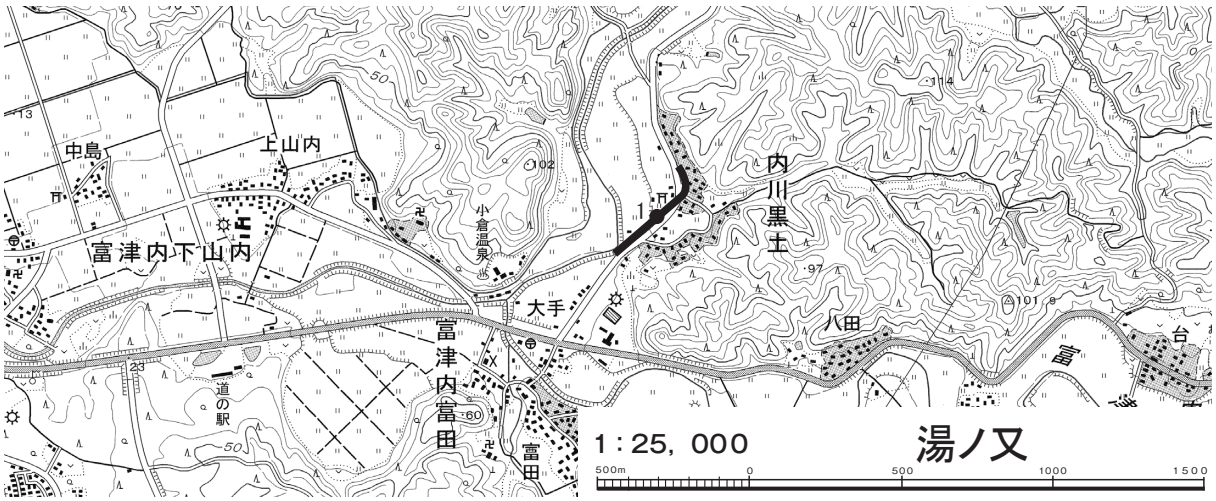


第６図　地方道路等整備事業　主要地方道秋田八郎潟線（町村工区）　遺跡分布調査位置図

（３）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道能代五城目線（内川黒土工区）

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	南秋田郡五城目町内川黒土	・・	水田	なし	

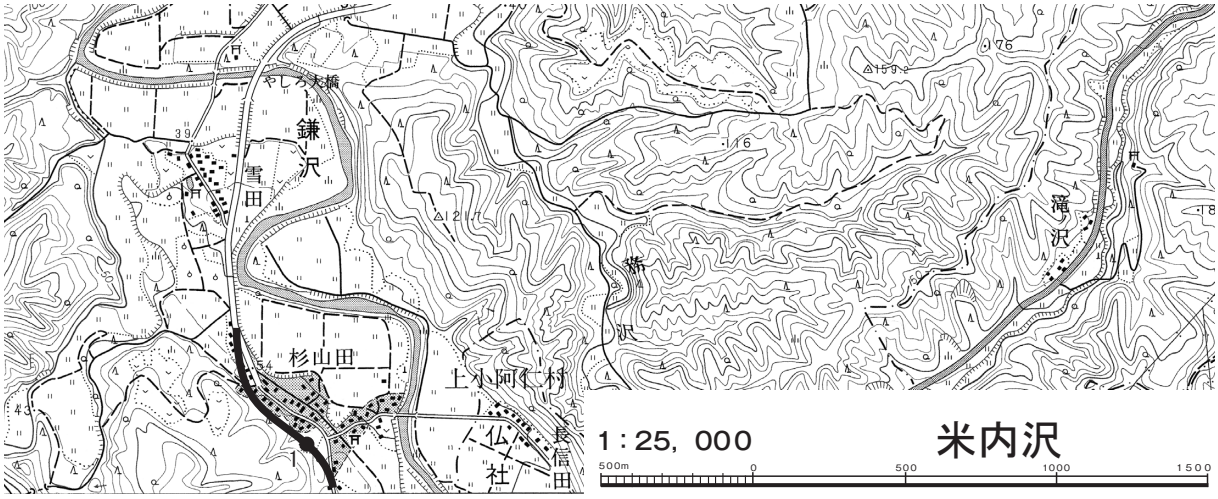


第７図　地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道能代五城目線（内川黒土工区）　遺跡分布調査位置図

（４）地方道路等整備事業（建設）　主要地方道鷹巣川井堂川線（杉山田工区）

事業予定地のうち、中心杭No.28～59について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	北秋田市鎌沢	・・	山林	なし	

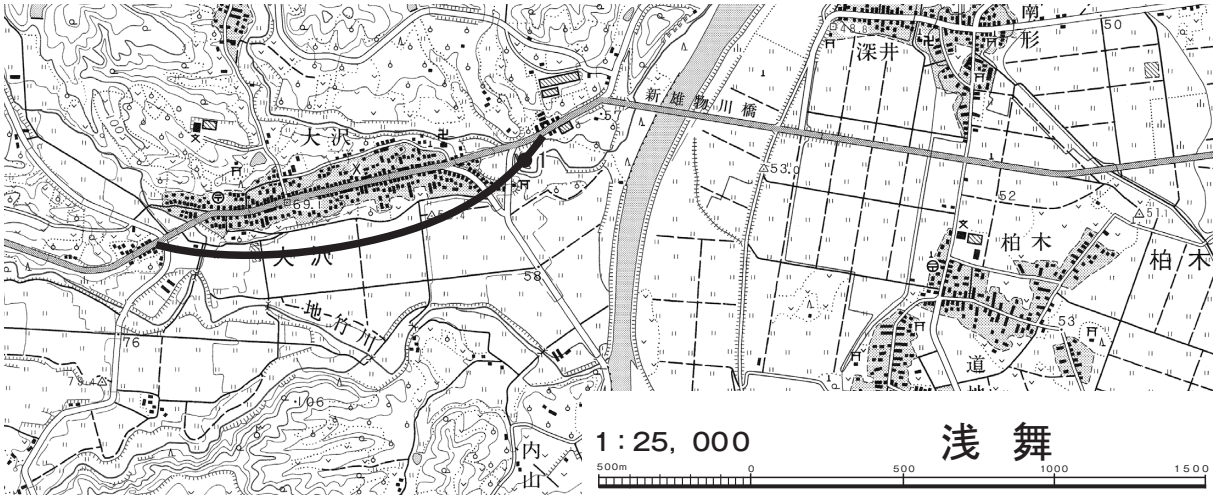


第８図　地方道路等整備事業（建設）　主要地方道鷹巣川井堂川線（杉山田工区）　遺跡分布調査位置図

（５）地方道路交付金事業（改築）　国道107号（大沢工区）

事業予定地のうち、中心杭No.12～16について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市雄物川町大沢	・・	水田	なし	

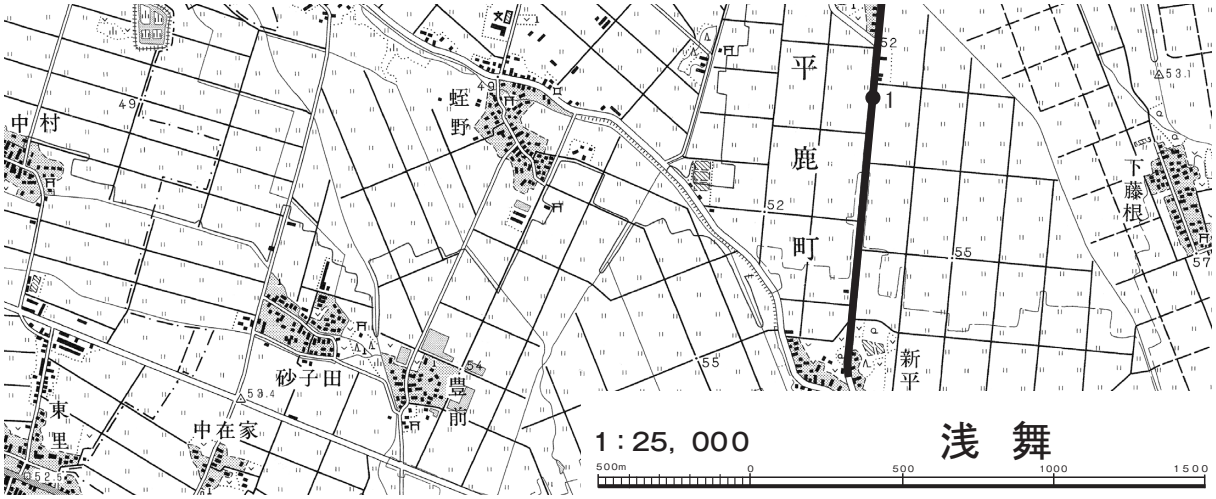


第９図　地方道路交付金事業（改築）　国道107号（大沢工区）　遺跡分布調査位置図

（６）地方道路等整備事業（建設）　一般県道野崎十文字線（五味川工区）

事業予定地のうち、中心杭No.８～35について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市平鹿町浅舞五味川	・・	水田	なし	

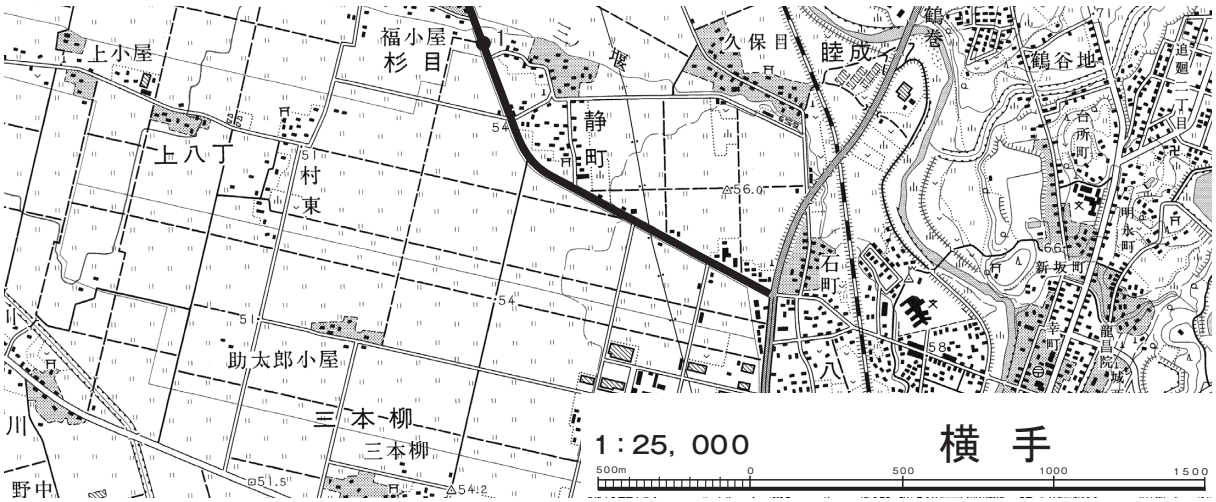


第10図　地方道路等整備事業（建設）　一般県道野崎十文字線（五味川工区）　遺跡分布調査位置図

（７）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）

事業予定地のうち、中心杭No.８～14について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市静町	・・	宅地・水路	なし	＊条里制から外れる

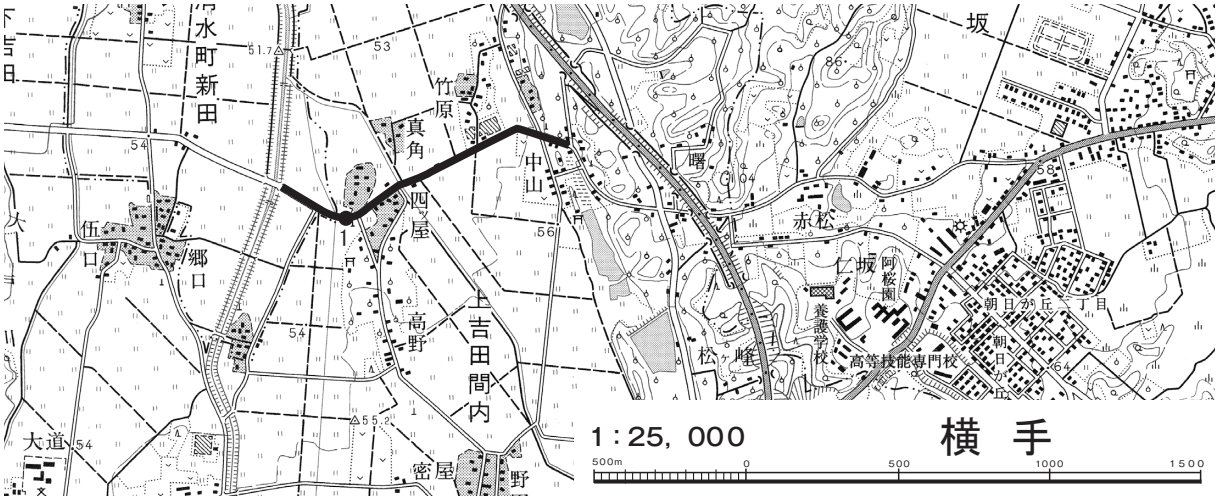


第11図　地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道大曲横手線（静町工区）　遺跡分布調査位置図

（８）地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道横手東由利線

事業予定地のうち、中心杭No.47～56について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市平鹿町上吉田	・・	水田・畑	なし	

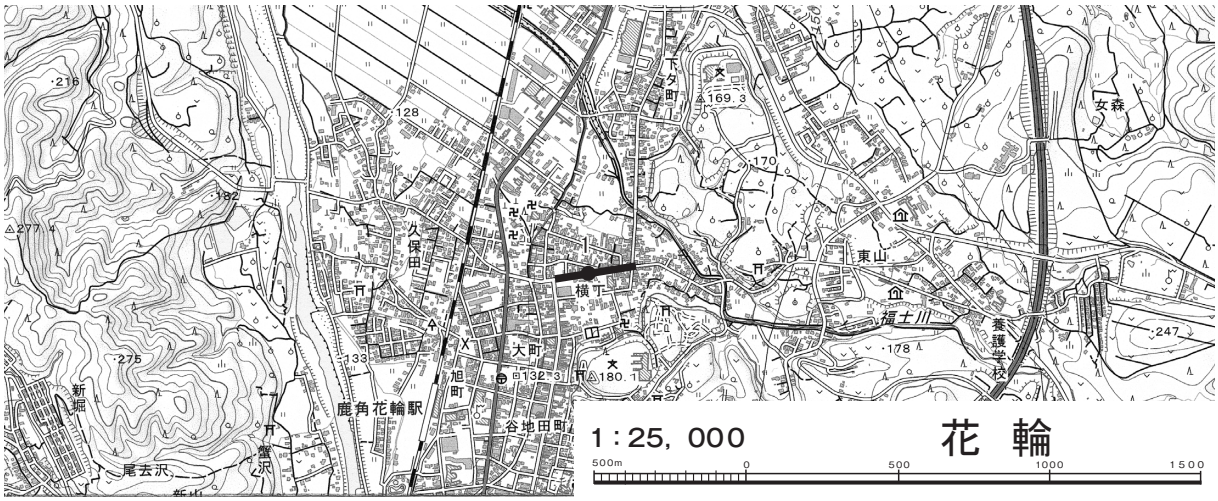


第12図　地方道路交付金事業（交通安全）　主要地方道横手東由利線　遺跡分布調査位置図

（９）地方街路交付金事業　３．４．９号久保田古館線

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	鹿角市花輪	・・	宅地	なし	

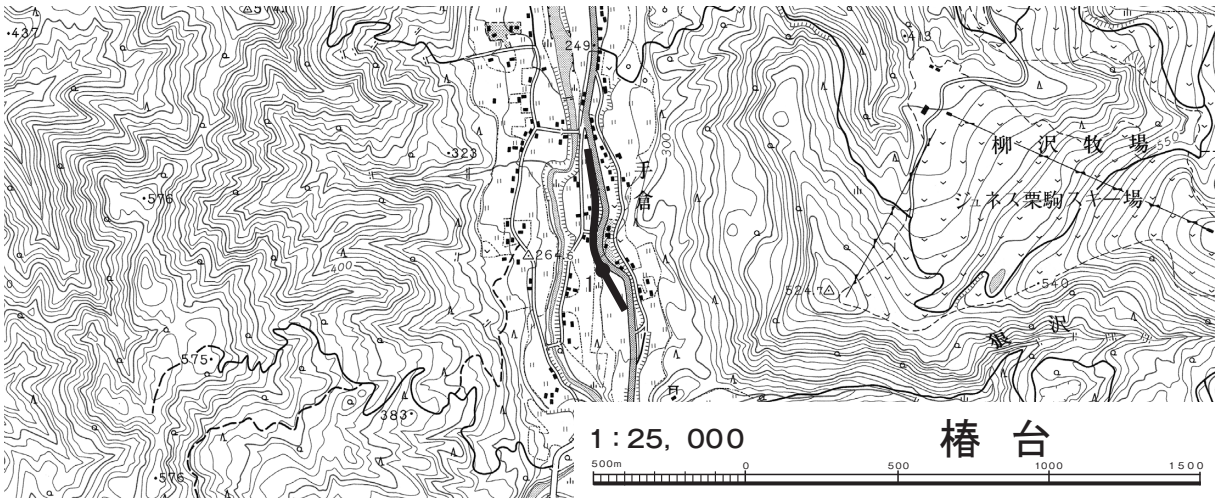


第13図　地方街路交付金事業　３．４．９号久保田古館線　遺跡分布調査位置図

（10）地方道路等整備事業（建設）　一般国道342号（手倉工区）

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	雄勝郡東成瀬村	・・	水田	なし	

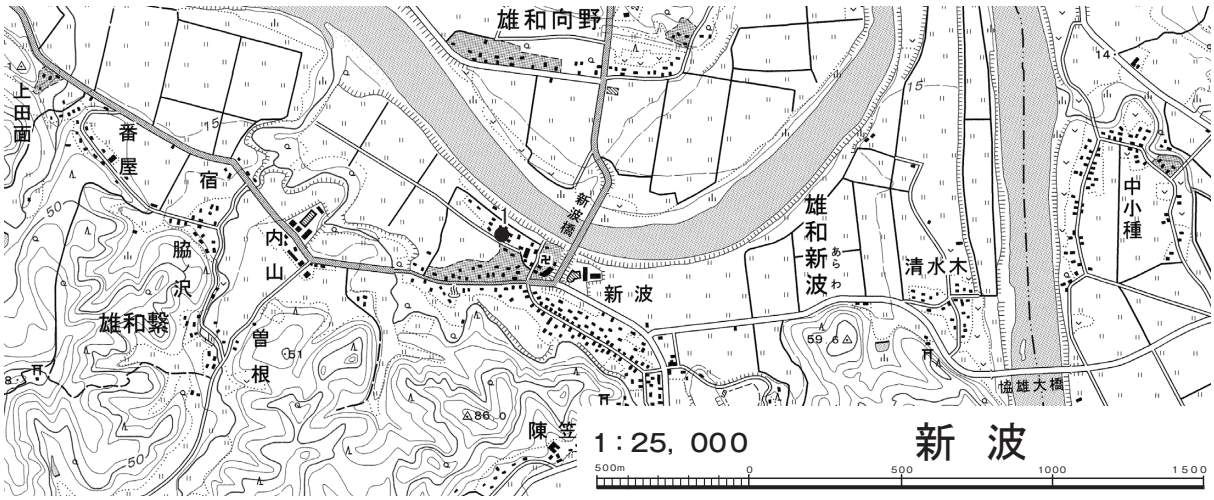


第14図　地方道路等整備事業（建設）　一般国道342号（手倉工区）　遺跡分布調査位置図

（11）雄物川中流部河川改修工事（新波新町地区）

事業予定地のうち、中心杭No.39～47の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市雄和新波新町	・・	水田・宅地跡	なし	

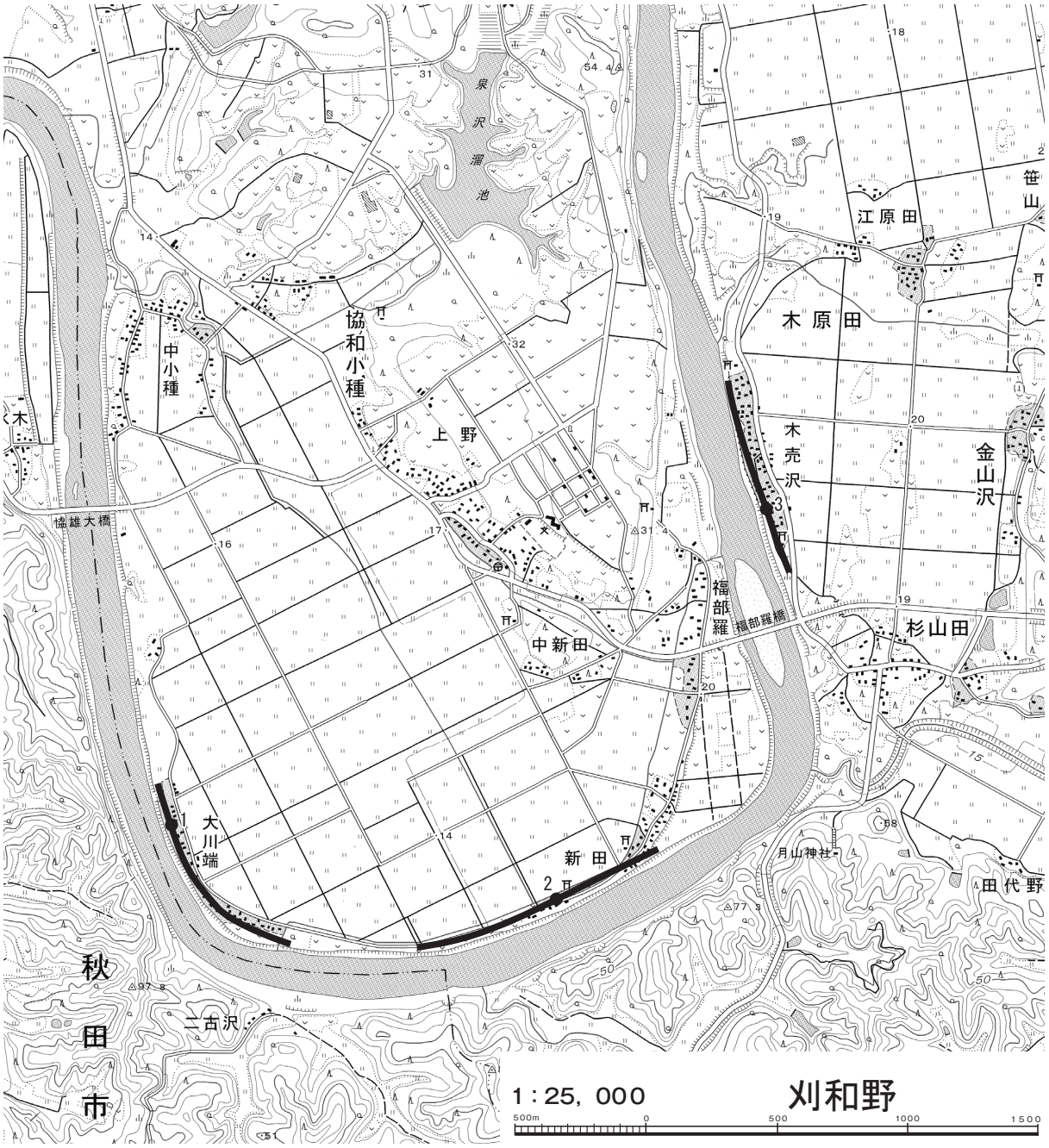


第15図　雄物川中流部河川改修工事（新波新町地区）　遺跡分布調査位置図

(12) 雄物川上流河川河道掘削事業（福部羅地区・強首地区）

事業予定地のうち、福部羅地区Ａ－３～10、Ａ－22～23、Ａ－25～26、強首地区Ｂ13～Ｂ27-４の試掘調査を実施した。調査の結果、周知の遺跡１か所（大谷地遺跡）を確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大谷地遺跡	大仙市協和小種福部羅	縄文	荒蕪地	土坑・縄文土器	周知の遺跡
2	・・・・・	大仙市協和小種福部羅	・・	荒蕪地	なし	
3	・・・・・	大仙市木原田	・・	荒蕪地	なし	

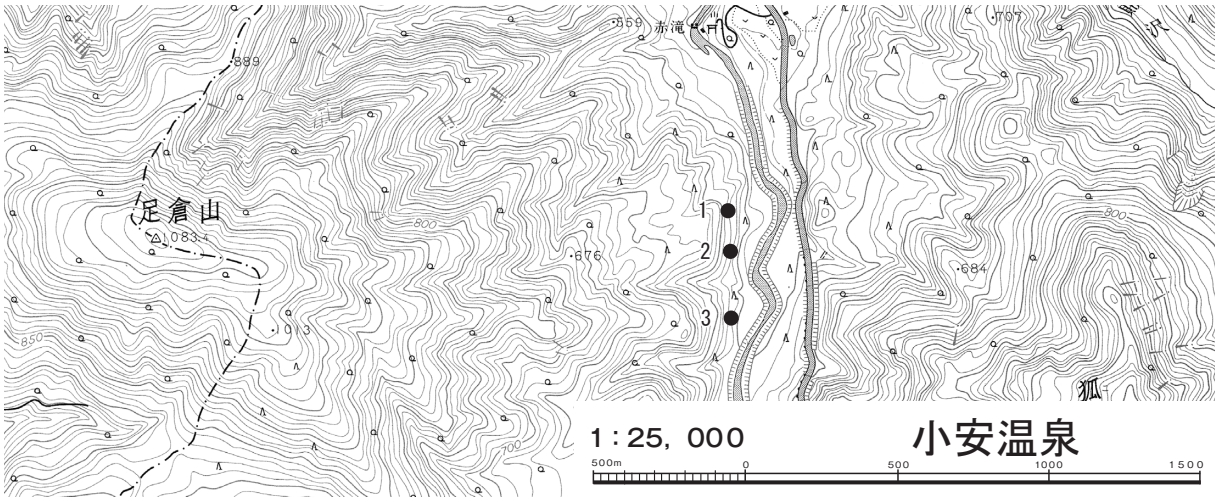


第16図　雄物川上流河川河道掘削事業（福部羅地区・強首地区）　遺跡分布調査位置図

(13) 成瀬ダム建設事業

事業予定地のうち、赤川沿いの３か所について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	雄勝郡東成瀬村椿川	・・	山林	なし	
2	・・・・・	雄勝郡東成瀬村椿川	・・	山林	なし	
3	・・・・・	雄勝東郡成瀬村椿川	・・	山林	なし	

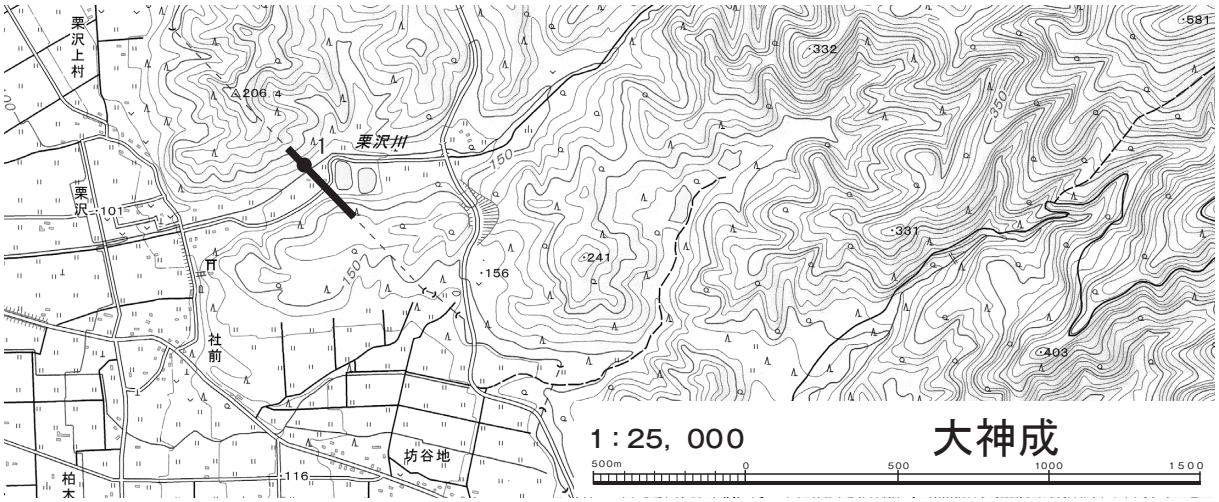


第17図　成瀬ダム建設事業　遺跡分布調査位置図

(14) 田沢二期農業水利事業(栗沢サイホン)

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市栗沢	・・	山林	なし	

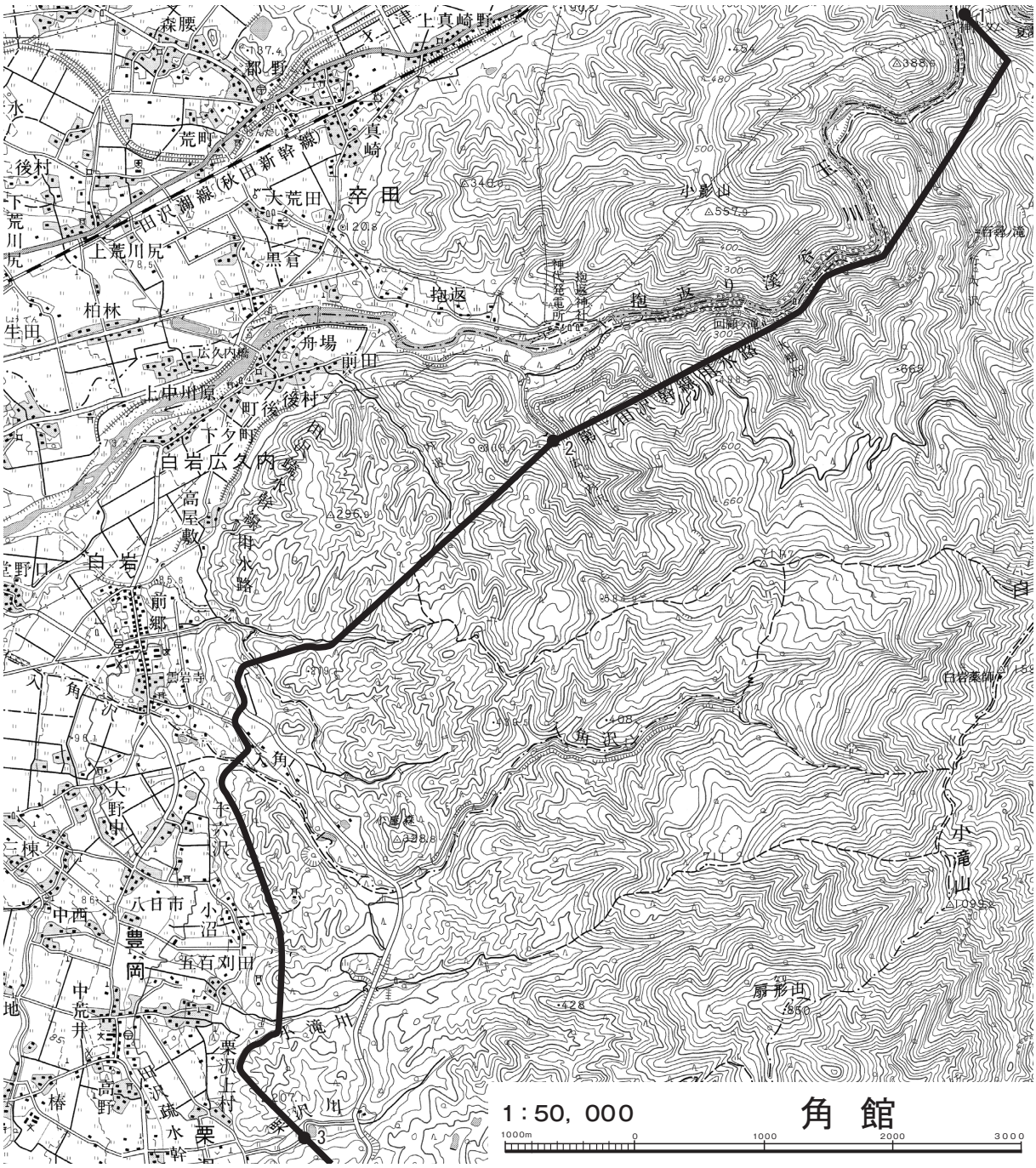


第18図　田沢二期農業水利事業(栗沢サイホン)　遺跡分布調査位置図

（15）田沢二期農業水利事業

事業予定地のうち、第二田沢幹線用水路に係る切り土のある工事箇所の踏査を実施した。踏査の結果、１か所の試掘を行うこととした。今後、事業の進捗に合わせて試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	仙北市田沢湖卒田	・・	山林	なし	＊取水口
2	・・・・・	仙北市角館町広久	・・	山林	なし	＊杉の沢開渠
3	・・・・・	大仙市栗沢	・・	山林	なし	＊栗沢サイホン

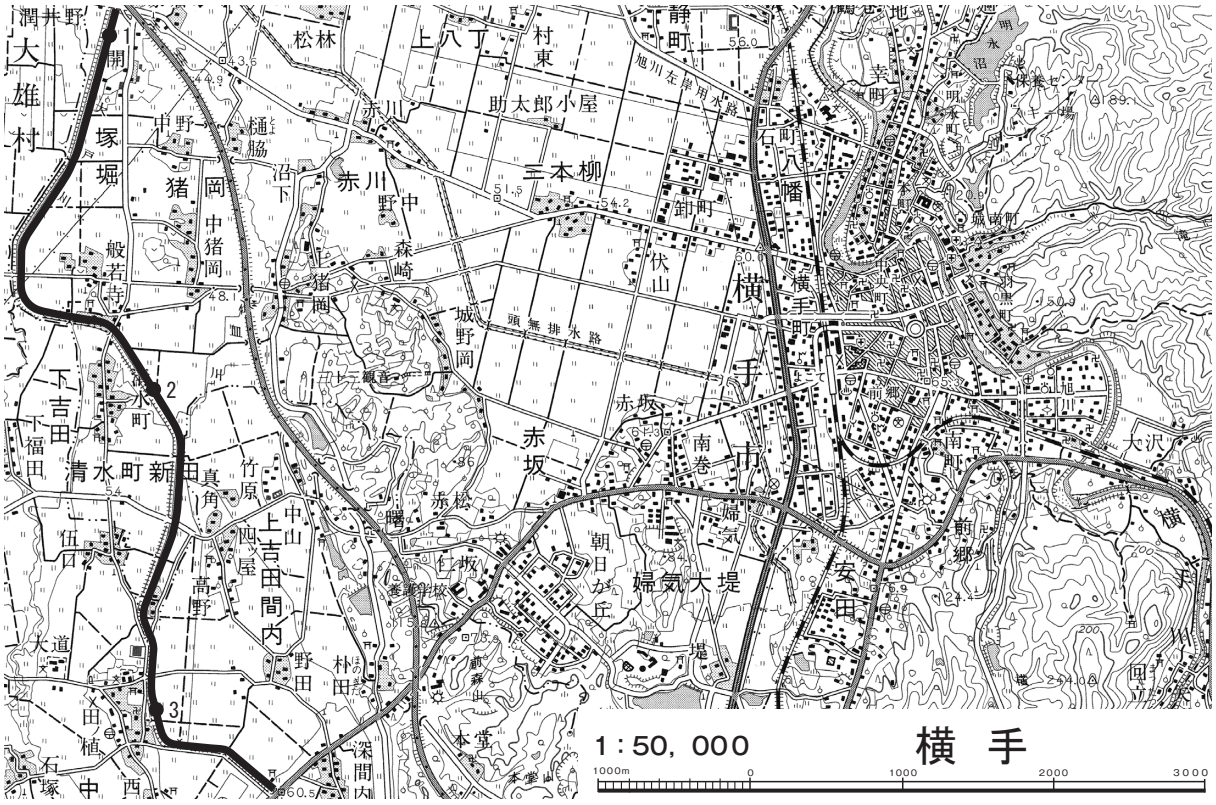


第19図　田沢二期農業水利事業　遺跡分布調査位置図

（16）横手西部農業水利事業

事業予定地のうち、吉田幹線排水路の今年度対象となる範囲を踏査した。踏査の結果、埋蔵文化財の対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせて踏査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市塚堀	・・	水路	なし	
2	・・・・・	横手市清水町新田	・・	水路	なし	
3	・・・・・	横手市平鹿町上吉田	・・	水路	なし	



第20図　横手西部農業水利事業　遺跡分布調査位置図

（17）米代東部森林管理署上小阿仁署新築工事

事業予定地について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

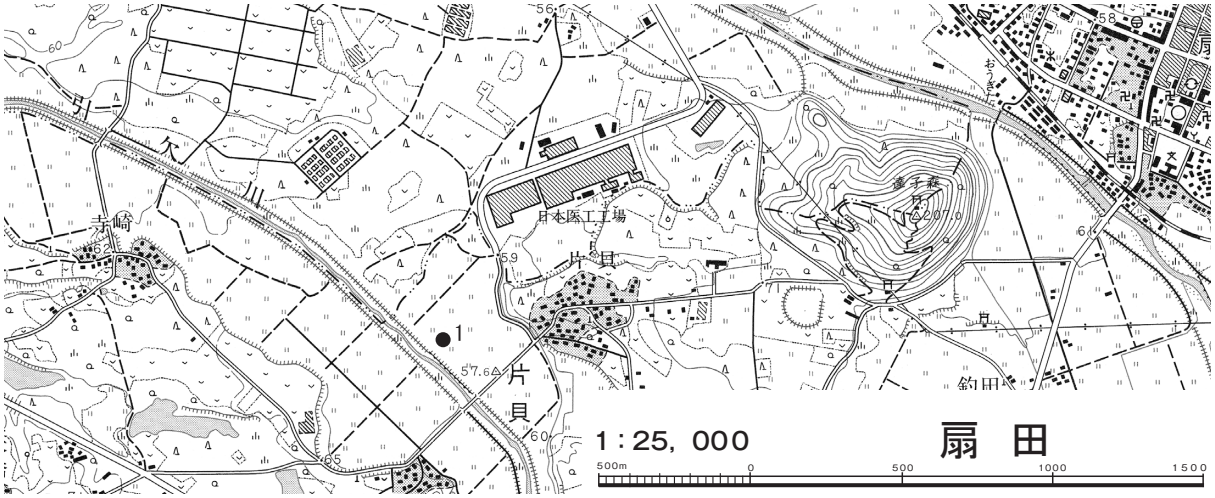
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	北秋田郡上小阿仁村沖田面	・・	宅地	なし	

第21図　米代東部森林管理署上小阿仁署新築工事　遺跡分布調査位置図

（18）大館工業団地造成事業

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、周知の遺跡１か所が事業に係ることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	片貝家ノ下遺跡	大館市比内	古代	水田	溝跡・須恵器	周知の遺跡

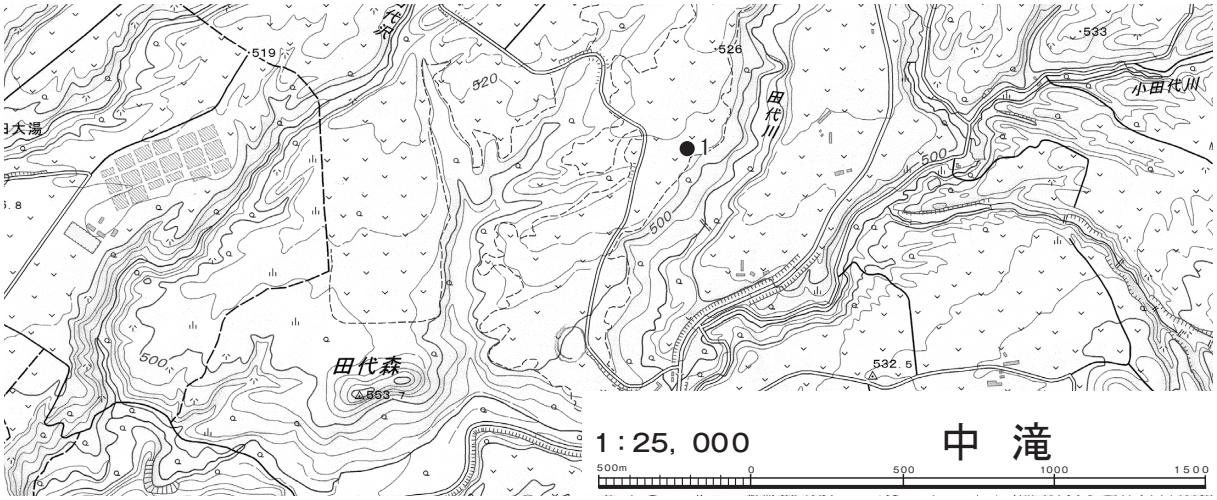


第22図　大館工業団地造成事業　遺跡分布調査位置図

（19）草地畜産基盤整備事業（草地整備型）　公共牧場整備事業鹿角東部地区

事業予定地のうち、７牧区の対象地で試掘を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	鹿角市十和田大湯	・・	牧草地	なし	



第23図　草地畜産基盤整備事業（草地整備型）　公共牧場整備事業鹿角東部地区　遺跡分布調査位置図

第２節　遺跡確認調査

１　成瀬ダム建設事業

トクラ遺跡

１　遺跡所在地　秋田県雄勝郡東成瀬村椿川字トクラ４－１

２　確認調査期間　平成27年６月１日～６月12日

３　確認調査対象面積　6,800㎡（北東部2,500㎡、西部4,300㎡）

４　工事区域内遺跡面積　23,500㎡

５　工事区域内要本発掘調査面積　西部4,550㎡（今年度3,550㎡、過年度分計1,000㎡）
東部4,540㎡（今年度本発掘調査実施済）

６　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は成瀬川支流の北ノ俣沢右岸にある南向きの段丘状の平坦面に立地する。平坦面は段丘面の様相を呈するが、地滑りによって形成された地形の可能性も考えられる。同面は高位・中位・低位の３面からなり、このうち上位２面が遺跡の範囲と推定される。今回調査を行った高位面の標高は480ｍほどで、北端側は崖錐性の亜角礫が堆積し、現状で６～８ｍ高い緩斜面である。西～南西側には中・下位の平坦面が続き、西端側と南端側はそれぞれ北側から流下する沢と北ノ俣沢に面した崖面である。

b　現況

遺跡推定範囲の中心部は、過去に杉林が伐採され成瀬ダム建設の工事用ヤードとして盛土造成されていたが、昨年度の時点で盛土はほぼ除去されていた。北端側には林道及び橋脚工事用道路が横断している。東側から南側縁辺部には雑木が繁茂し、西側縁辺部は杉林となっている。今年度調査対象２か所のうち、遺跡北東部は橋脚工事用道路とその周辺の造成地及び杉林である。もう１か所の遺跡西部は杉林及び雑木林であり、調査時には伐採済みであった。遺跡西部は北東から南西に向かって下る急～緩斜面で、北東端から南西側崖面に向かって小規模の浅い沢が横断する。

７　確認調査の方法

確認調査は、平成25年度に遺跡東端部から南端部を、平成26年度に遺跡中央部を対象にそれぞれ実施し、今年度は、残りの遺跡北東部2,500㎡と昨年度確認調査範囲の西隣に当たる遺跡西部4,300㎡を対象に実施した。調査では北東部に東西方向に長さ約30ｍのトレンチ１本(17トレンチ)、西部に長短16本のトレンチ(18～33トレンチ)を設定した。トレンチは原則として重機により約２ｍ幅で基盤層まで掘り下げ、その後に人力でトレンチ壁面及び底面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。調査の記録は、検出遺構の位置を示す平面図及び簡易土層図の作成と写真撮影を行い、遺物は出土位置を記録して取り上げた。実質調査面積は377㎡で、確認調査対象面積の約5.5％に相当する。

８　確認調査の結果

a　層序

遺跡の基本層序は、次のとおりである。

Ⅰ層　黒色(10YR1.7/1)シルト　締まり弱　粘性弱　層厚５～20cm　現表土

Ⅱ層　暗褐色(10YR3/3)シルト　締まり中　粘性弱　層厚５～20cm　旧表土相当層　遺物包含層

Ⅲ層　褐色～にぶい黄橙色(10YR4/4～10YR7/2)混礫シルト　締まり強　粘性弱　層厚20～40cm
基盤相当層　上位遺物包含層

Ⅲ'層　明青灰色(5BG7/1)混礫砂質シルト　締まり強　粘性弱　Ⅲ層のグライ化層

北東部の17トレンチでは、橋脚工事用道路造成に伴い主として西側では現表土（Ⅰ層）及びその下位層は大きく削平されたものと見られる。当該トレンチでは、現地表下には工事用道路造成土が1.6～２ｍの厚さで堆積する。トレンチ東側では造成土下に部分的に現表土（Ⅰ層）、旧表土相当層（Ⅱ層）が残存している。基盤相当層（Ⅲ層）は地下水の影響で部分的にグライ化している。

西部では、斜面上位に当たる北端側では旧表土相当層（Ⅱ層）を欠き、斜面中位から下位にかけては現表土（Ⅰ層）下に層厚10～20cmの旧表土相当層（Ⅱ層）が堆積する。基盤相当層（Ⅲ層）は角礫が多量に混ざり、地滑りあるいは崖錐に関わる堆積物の可能性がある。西部確認調査対象範囲を横断する沢周辺のⅢ層下位はグライ化している（Ⅲ'層）。

ｂ　検出遺構と出土遺物

北東部では遺構・遺物は検出されなかった。西部では、Ⅲ層上面で竪穴建物跡５棟、土坑13基、溝跡１条を検出したほか、主としてⅡ層～Ⅲ層上位で縄文土器及び石器を検出した。西部確認調査対象範囲を横断する沢南側の21・33トレンチには、縄文時代後期の竪穴建物跡と推定される大形の落ち込みが複数分布する。その他の土坑・溝跡及び遺物も主として沢の南側に集中するが、沢北側の26・29トレンチにもわずかに土坑あるいは遺物が分布している。

９　所見

ａ　遺跡の種類

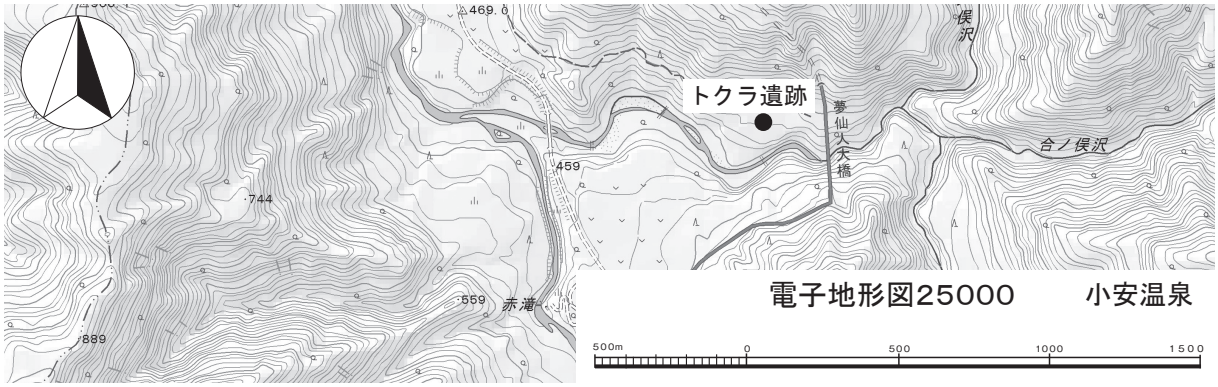
今年度の確認調査対象範囲のうちの西部では、縄文時代後期の可能性がある竪穴建物跡や土坑等を検出した。過去の確認調査結果も勘案すると、本遺跡は地点を異にして営まれた縄文時代早期～前期・後期の集落跡であり、今年度確認調査対象範囲西部周辺は縄文時代後期の集落跡と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

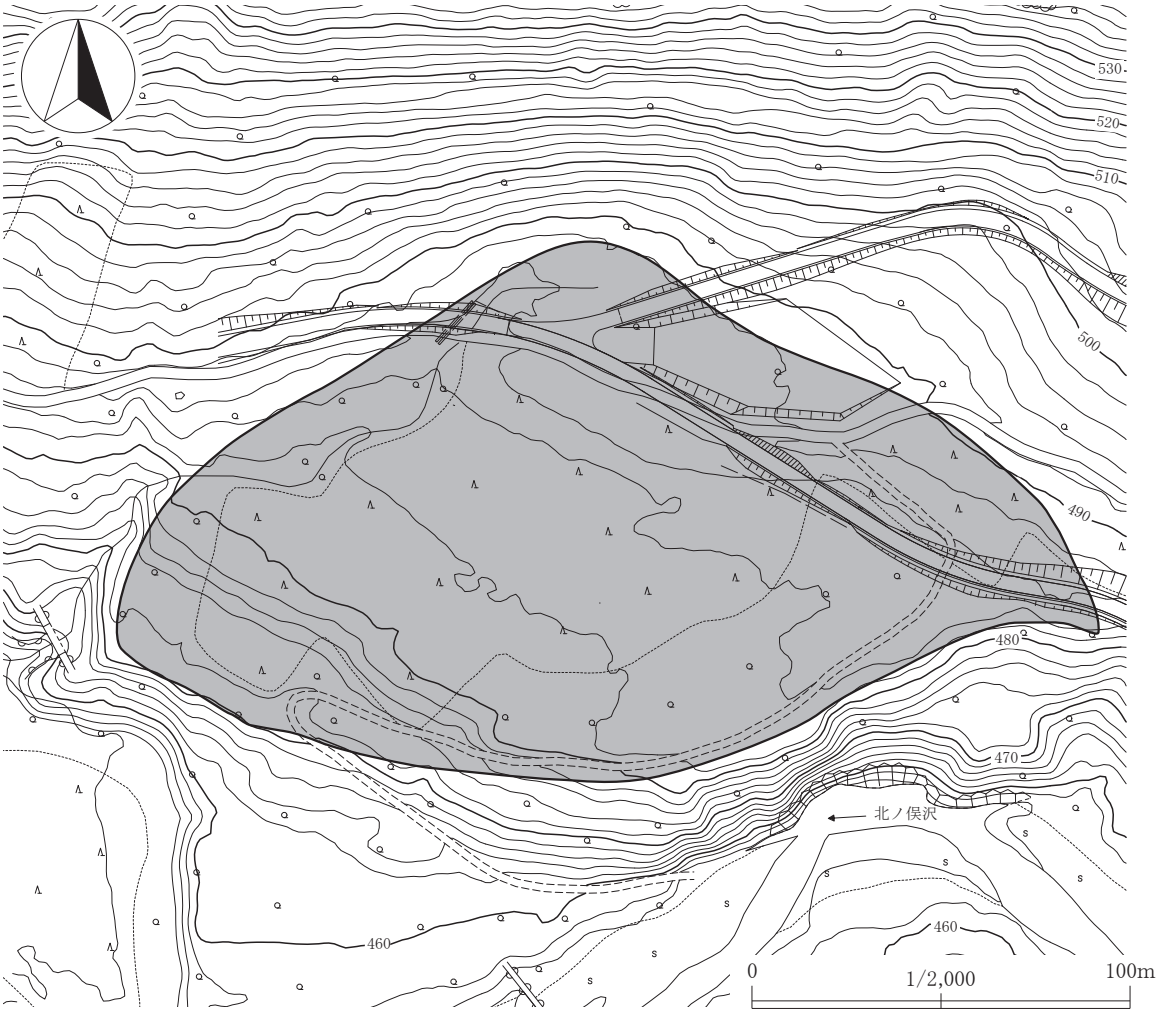
確認調査対象２か所のうちの北東部では遺構・遺物が確認できなかったため、要本発掘調査範囲から除いた。同西部では当該箇所を横断する沢の南側を中心として一部北側にかけて遺構・遺物が分布する。西部において本発掘調査が必要とされる範囲は、遺構・遺物が確認されなかった北端部分を除き、過年度確認調査結果による要本発掘調査範囲1,000㎡を合わせた計4,550㎡である。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

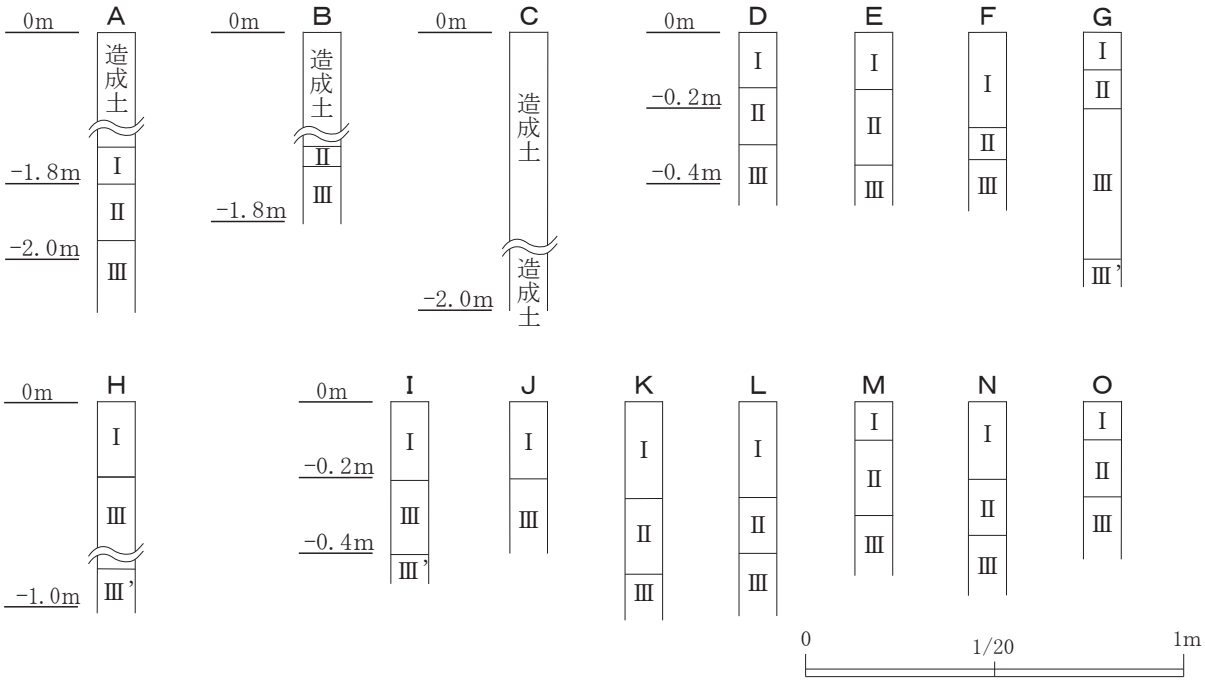
縄文時代後期の竪穴建物跡・土坑等と主に縄文時代後期の土器・石器が検出されると予想される。



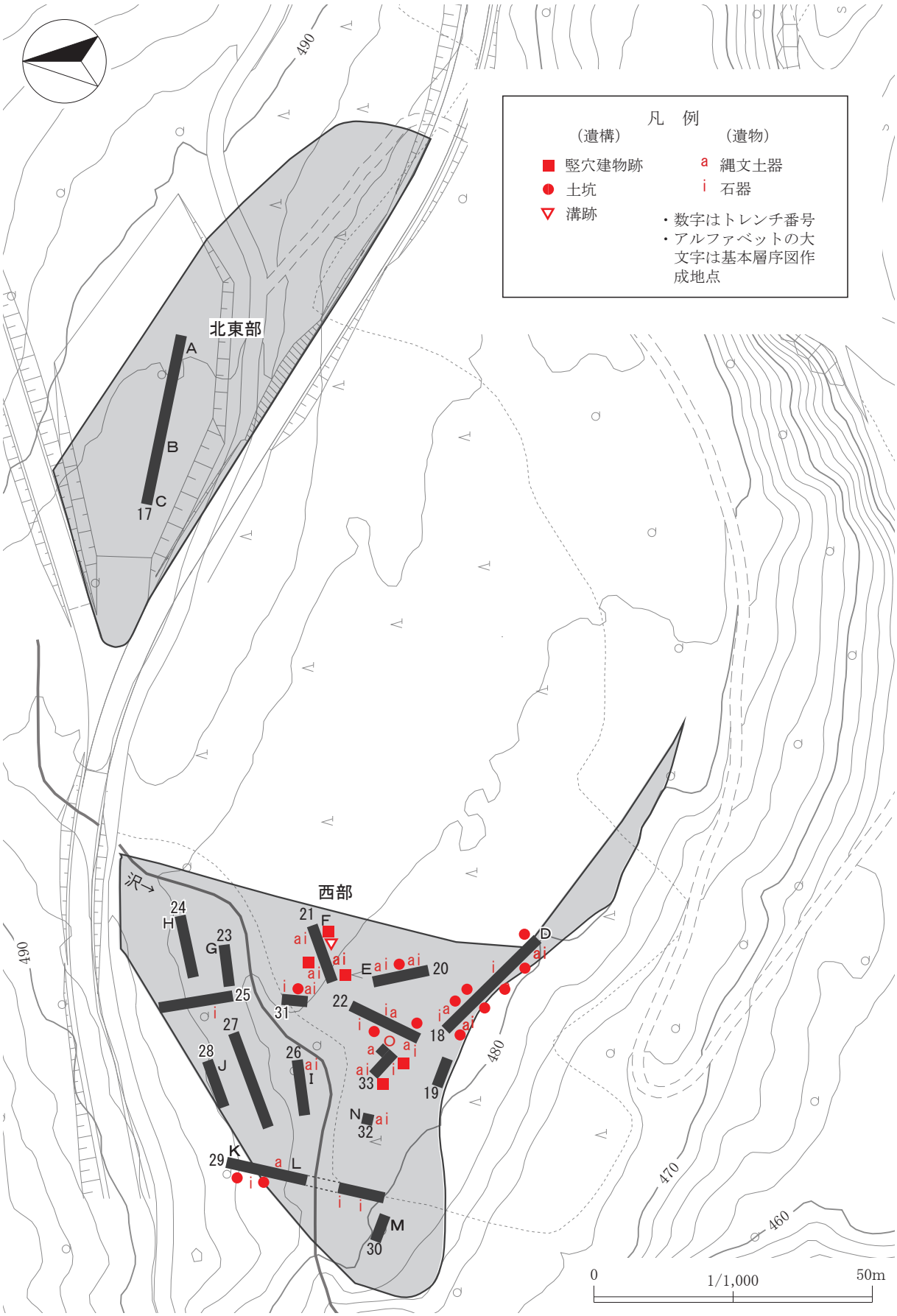
第24図　トクラ遺跡位置図



第25図　トクラ遺跡推定範囲図



第26図　トクラ遺跡基本層序図



第27図　平成27年度トクラ遺跡確認調査結果図

第28図　トクラ遺跡要本発掘調査範囲図（西部）

１．遺跡西部遠景
（南東から）

２．21トレンチ中央検出
竪穴建物跡（南から）

３．18トレンチ東端検出
土坑（西から）

２　雄物川中流部河川改修工事

新波遺跡

１　遺跡所在地　秋田県秋田市雄和字新波竹ノ花207外

２　確認調査期間　平成27年11月５日～11月13日

３　確認調査対象面積　4,300㎡

４　工事区域内遺跡面積　4,300㎡

５　要本発掘調査面積　0㎡

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は秋田県農業試験場から南東６㎞、標高14ｍの雄物川左岸氾濫原上に立地する。遺跡から0.1㎞北には雄物川が大きく蛇行して西流し、遺跡の南0.3㎞には丘陵が迫る。本遺跡の南東１㎞には、縄文時代の大巻Ⅰ遺跡、古代の大巻Ⅱ遺跡、縄文時代から中世の清水木遺跡が、また雄物川対岸の北１㎞には縄文時代の向野遺跡がある。南側を中心とした丘陵には中世城館が見られ、東南東0.6㎞には、新波館、南0.3㎞には大正寺館等がある。

ｂ　現況

水田であり、調査対象地は休耕田になっている。

７　確認調査の方法

調査では幅1.8ｍのトレンチを全体で大きくは８本（１トレンチ～８トレンチ）設定し、重機で遺構・遺物の有無を確認しながら掘り下げた。掘り下げ後、人力でトレンチ壁面及び底面を精査し、遺構・遺物の検出作業を行った。検出した遺構・遺物は写真撮影後に位置を記録し、遺物については取り上げた。実質調査面積は358㎡で、確認調査対象面積の8.3％に相当する。

８　確認調査の結果

ａ　層序

調査対象範囲内の層序は、主として推定される成因及び堆積環境とその時期から、大きくはⅠ層からⅧ層に分けた。Ⅰ層は現水田に関わる層である。耕作土（Ⅰａ）とその下位の水田造成時の客土（Ⅰｂ）とに二分される。Ⅱ層は調査対象範囲西側に分布する現水田造成直前の旧表土及びその基盤層である。今回の調査では、ほ場整備前の旧水田耕作土は明確に確認できなかった。Ⅲ層は黒泥状粘土、Ⅳ層はその基盤となる弱グライ化した粘土層である。Ⅲ層は一部の地点で色調により上下に細分した（Ⅲａ・Ⅲｂ）。また、Ⅲ・Ⅳ層の層界は明瞭であるが、下底面は地点によっては凹凸が著しい。Ⅲ層は近世磁器が出土したことから近世以降の堆積と判断される。Ⅴ層とⅥ層も黒泥状粘土とその基盤の弱グライ粘土層である。Ⅶ層はラミナ様の灰色粘土と黒褐色粘土の薄い層が互層となった雄物川本流もしくは支流の水成堆積物と推定される。本層は摩滅した古代の土師器片が出土したことから、古代以降の堆積と推定される。Ⅷ層は未分解有機物を含む泥炭層である。これらの層序から、調査対象範囲周辺は近現代の水田造成以前においては、大勢として雄物川沿いの沼沢地的環境であったものと推定される。

Ⅰａ層　黒褐色～にぶい黄褐色（10YR3/2～4/3）シルト質粘土　締まり中　粘性やや弱　層厚10～25㎝
水田耕作土

Ⅰb層　明黄褐色(10YR6/6)砂質混シルト質粘土　締まり強　粘性やや強　層厚10～80㎝　水田客土

Ⅱ層　黒褐色～褐灰色(10YR3/1～4/1)粘土　締まり中　粘性強　層厚９～98㎝　旧表土～近現代基盤層

Ⅲa層　黒色(10YR1.7/1)粘土　締まりやや弱　粘性強　層厚13～50㎝　近世遺物出土

Ⅲb層　暗褐色(10YR3/4)粘土　締まり強　粘性強　層厚５～23㎝

Ⅳ層　オリーブ灰色(5GY5/1)粘土　締まり強　粘性強　層厚７～37㎝

Ⅴ層　黒褐色(10YR3/1)粘土　締まり強　粘性強　層厚３～20㎝

Ⅵ層　オリーブ灰色(5GY5/1)粘土　締まり強　粘性強　層厚５～20㎝

Ⅶ層　灰色(7.5Y4/1)粘土と黒褐色(10YR3/1)粘土の互層　締まり強　粘性強　層厚８～58㎝　古代遺物出土　流水成堆積層

Ⅷ層　未分解有機物混じり泥炭　締まり弱　粘性強　層厚45㎝以上

b　検出遺構と出土遺物

調査の結果、調査区北側の１・７・８トレンチⅣ層上面で雄物川方向に延びると推定される溝跡を４条検出した。このうち１トレンチと８トレンチで検出した溝跡は、同一の溝跡と判断される。溝跡は幅２～４ｍで、覆土はいずれもⅢ層起源と見られる。また、調査対象範囲南東側の５・６トレンチⅣ層上面で柱穴様ピットを３基検出した。いずれも小規模不整形で覆土が直上のⅢ層起源であることから、当該層下底の凹凸に由来する自然の落ち込みの可能性も想定される。

出土遺物は、縄文土器１点、剝片１点、土師器４点、須恵器１点、近世磁器５点である。このうち、縄文土器破片と土師器甕破片各１点は溝跡から、土師器の坏破片１点はⅦ層から、近世磁器碗破片１点はⅢa層からの出土である。それ以外の遺物はⅠ・Ⅱ層出土もしくは表面採集である。出土遺物はいずれも小片で、縄文土器・土師器は摩滅している。

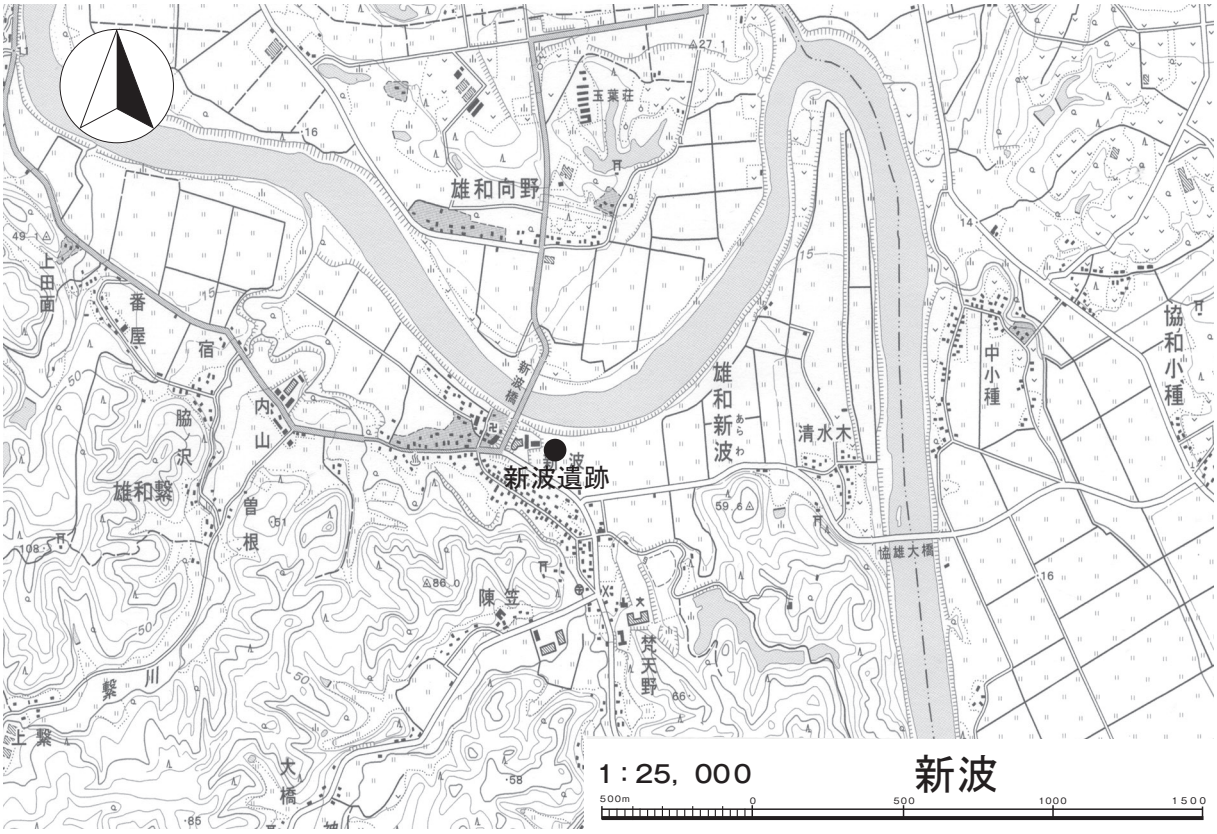
９　所見

a　遺跡の種類

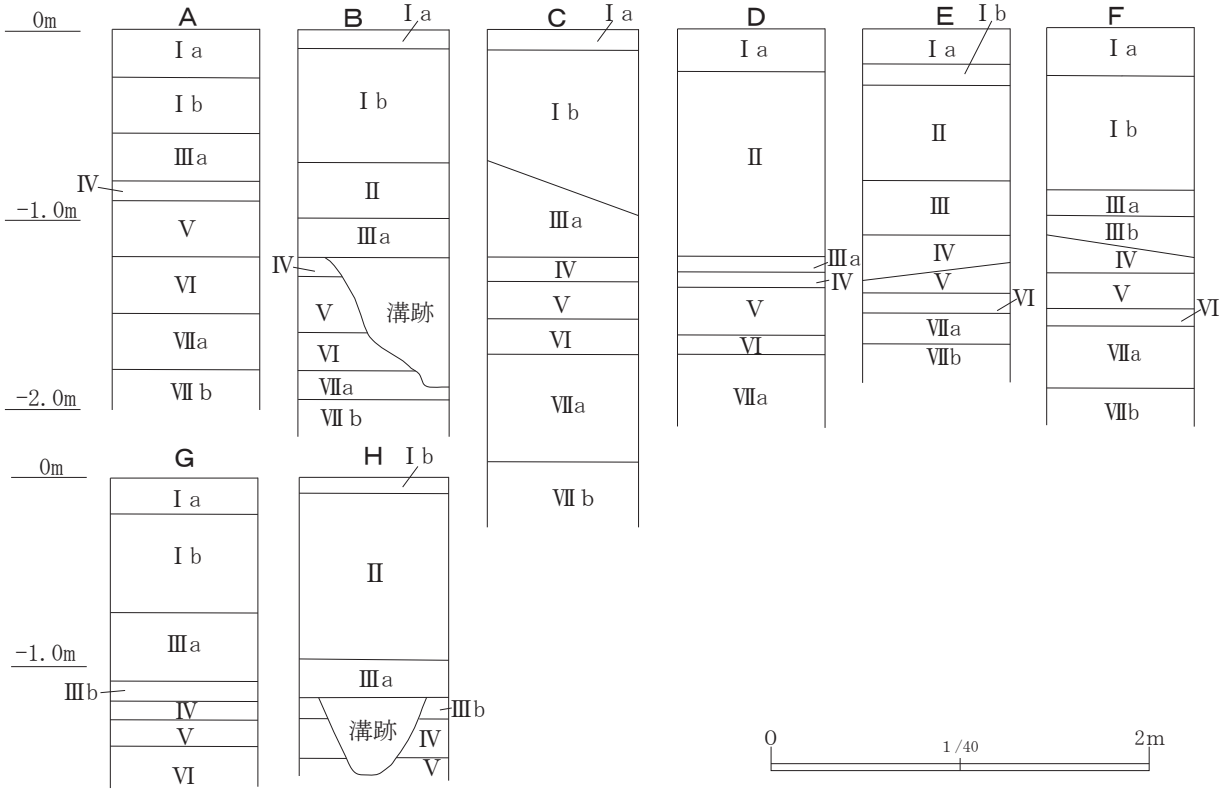
検出した溝跡及び柱穴様ピットは、確認面及び覆土からいずれも近世以降の所産と判断される。用排水路など水田耕作に関わる施設であった可能性も想定されるが、確実ではない。縄文土器や剝片、土師器・須恵器等は、周辺に存在した集落等から流入した可能性が高く、今回の調査対象範囲はその縁辺部の遺物散布地に当たるものと判断される。

b　遺跡の範囲と工事区域

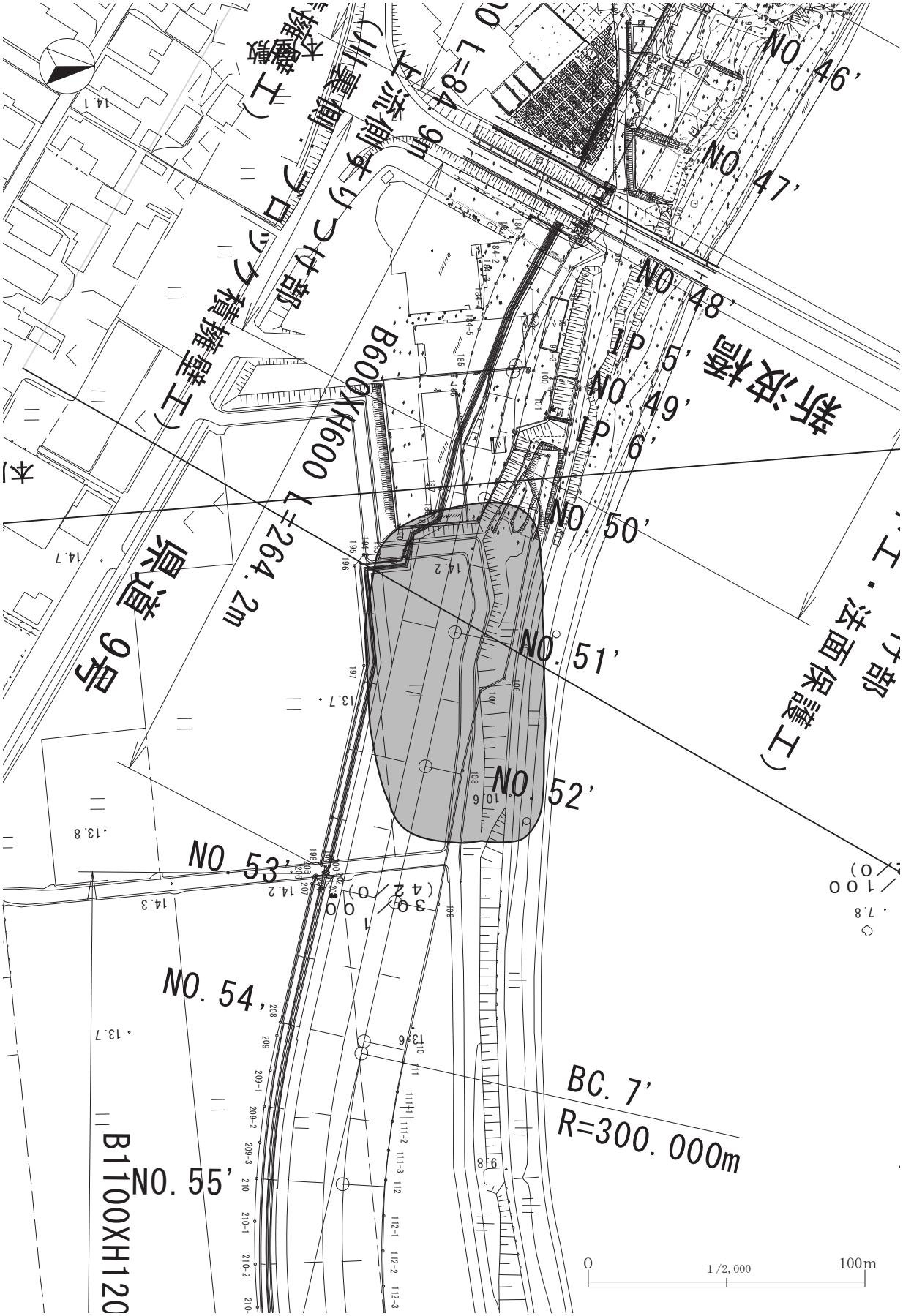
今回の工事区域は、大きくは縄文時代と古代の遺物散布地である。ただし、遺物分布は散漫であることから、本発掘調査対象からは除外することとする。



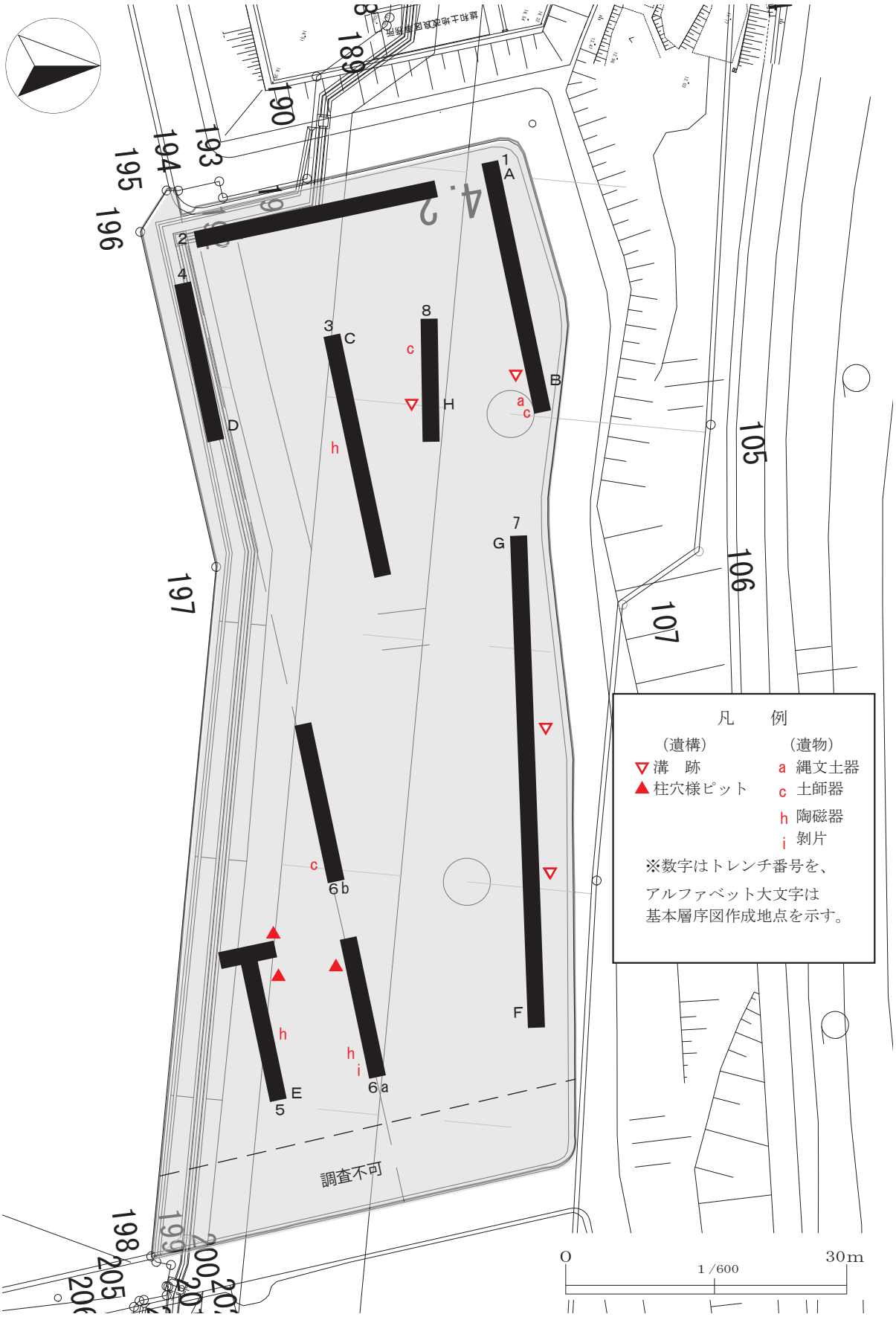
第29図　新波遺跡位置図



第30図　新波遺跡基本層序図



第31図　新波遺跡推定範囲図



第32図　新波遺跡確認調査結果図

１．遺跡遠景（北西から）

２．第３トレンチ
土層断面（南から）

３．第１トレンチ
溝跡検出状況
（北から）

３　大館工業団地造成事業

片貝家ノ下遺跡

１　遺跡所在地　秋田県大館市比内町片貝字家ノ下17外

２　確認調査期間　平成27年９月29日～11月24日

３　確認調査対象面積　15,300㎡（全体39,000㎡）

４　工事区域内遺跡面積　39,000㎡

５　工事区域内要本発掘調査面積　15,300㎡（未確定23,700㎡）

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は、ＪＲ花輪線扇田駅の南西２㎞に位置し、引欠川右岸の標高58ｍの沖積地に立地する。引欠川は昭和30年代後半まで遺跡の北縁に沿うように流れていたため、遺跡は本来この川の左岸に位置していたことになる。遺跡の北に隣接する旧河道は周囲より1.5ｍほど低く現地形でも確認できる。

引欠川流域は古くから埋没建物が見つかることで知られ、本遺跡から５㎞ほど下流に位置する大披・板沢地区では、洪水に伴う崖崩れの際に建物が発見されてきたことが菅江真澄等の記録に残されている。なお、平安時代の集落跡である片貝遺跡は、本遺跡の北東0.7㎞の台地上にある。

ｂ　現況

調査対象範囲全域が、休耕田である。対象範囲は東西方向に長く、その中を車両通行可能な２本の農道が100ｍ間隔で北東－南西方向に縦走している。

７　確認調査の方法

調査は、トレンチ調査を基本とし、上面幅４～６ｍ、底面幅1.6ｍのトレンチを水田区画に直交させる形でおおよそ20ｍ間隔で設定した。トレンチ内での見極めが困難な場合は必要に応じ範囲を拡張し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチの掘削は重機と人力で行った。トレンチの総数は計８本、実質調査面積は1,200㎡で、27年度確認調査対象面積15,300㎡の7.8％（全体39,000㎡の3.1％）に相当する。

８　確認調査の結果

ａ　層序

遺跡の基本層序は、次のとおりである。

Ⅰ(Ⅰa)層　黒褐色(10YR2/2)シルト　層厚20～40㎝　耕作土

Ⅱ層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質シルト（シラス）　軽石少量含む　層厚10～250㎝
　　西暦915年の十和田火山噴火起源の火山泥流堆積物

Ⅲ層　にぶい黄褐色(10YR5/4)砂礫(径1～8㎜)　層厚５～10㎝　降下軽石層（大湯軽石層）

Ⅳ層　黒褐色(10YR2/2)粘土　層厚５～20㎝　遺物包含層　植物遺体を含む部分あり

Ⅴ層　灰黄褐色(10YR4/2)粘土　層厚15～20㎝　漸移層

Ⅵ層　にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土　層厚20～30㎝

Ⅶ層　黄褐色(10YR5/6)砂礫

遺跡内の層序は７層に大別できる。Ⅰ層は３層に細分できる。主体となるのは耕作土のⅠａ層である。昭和30年代後半に行われた圃場整備により削平されたⅡ層上面に広く堆積している。Ⅰｂ層は河

川改修前までの引欠川の河川敷堆積物層で、Ⅱ層を深く浸食し植物遺体を含む。Ic層は、Ⅱ層を浸食する流路跡である。細かい砂利で構成され、植物遺体を含まず浸食の深度は浅い。Ⅱ層は火山泥流堆積物、Ⅲ層は比較的粒子の大きい降下軽石層（大湯軽石層）で、ともに西暦915年の十和田火山の噴火活動に伴う堆積層である。Ⅱ層は、緻密で堅くシャベル・スコップ等での掘削は困難である。上部に軽石を含み、所によりⅢ層直上部分１～３㎝が、粘土もしくは緻密な砂質シルトとなる。Ⅲ層は締まりが弱く比較的粗鬆な堆積状態であり、粒子の大きさで分層できる所もある。Ⅲ層は旧地表面であるⅣ層の起伏に対応する形で堆積しており、Ⅳ層上面は噴火以前の微地形をよく現している。Ⅳ層は、上面付近で平安時代の遺物が出土する。調査区南側を中心とする後背湿地では、場所によって植物遺体を含む。Ⅴ・Ⅵ層は遺物を含まない粘土層であり、Ⅳ～Ⅵ層は自然堤防の上部を構成する氾濫性堆積物とみられ、河川からの堆積物の供給が終わった後に土壌化が進みⅣ層が形成されたと考えられる。これらの下位にあるⅦ層は、自然堤防の深層もしくは基底に位置するとみられる砂礫層である。遺構は、Ⅱ層中（上面～下端）、Ⅳ層上面とⅤ～Ⅵ層面で確認できる。

ｂ　検出遺構と出土遺物

調査対象範囲のほぼ全域で遺構・遺物を検出した。検出遺構には平安時代の竪穴建物跡12棟、土坑６基、焼土遺構７基、溝跡11条、河川跡１条、性格不明遺構３基、柱穴様ピット30基等がある。竪穴建物跡は、埋土が人為堆積によるものと自然堆積によるものとに分けられる。人為堆積のものは９棟あり、人為堆積層の上位にⅡ層（火山泥流堆積層）があるため、西暦915年の十和田火山噴火以前に廃棄（埋め戻し）が行われていたことがわかる。自然堆積のものは３棟あり、壁から床面上にかけて降下軽石であるⅢ層（大湯軽石層）が堆積し、その上にⅡ層が堆積するもの（１棟）と床面上に火山泥流堆積物であるⅡ層が直接堆積するもの（２棟）の２つがある。前者は噴火時に既に廃棄され上屋が残っていない状態、後者は噴火時に上屋があった状態を示している。そのうちの１棟（４トレンチＳＩ０３）では、上屋構造がわかる状態で残っていた。このような例は極めて珍しく貴重な資料である。竪穴建物跡の規模は、一辺が３～６ｍの方形である。土坑は平面形が直径１ｍ前後のものを検出した。溝状遺構は、幅0.2～４ｍ、深さ0.2～１ｍと大小様々なものがある。焼土遺構は、Ⅳ層上面に形成されている。柱穴様ピットは、Ⅳ層上面ではⅡ～Ⅲ層の落ち込みとして、Ⅴ～Ⅵ層では、黒褐色土の落ち込みとして確認される。ただし、５トレンチ北端付近で確認された柱穴様ピットでは、Ⅱ層中に柱の腐食とみられる痕跡が確認でき、柱が直立した状態で埋没したと推測される。遺物は、Ⅳ層と遺構床面及び底面、埋土から土師器の坏や甕、須恵器の坏・壺、木製品が出土している。

９　所見

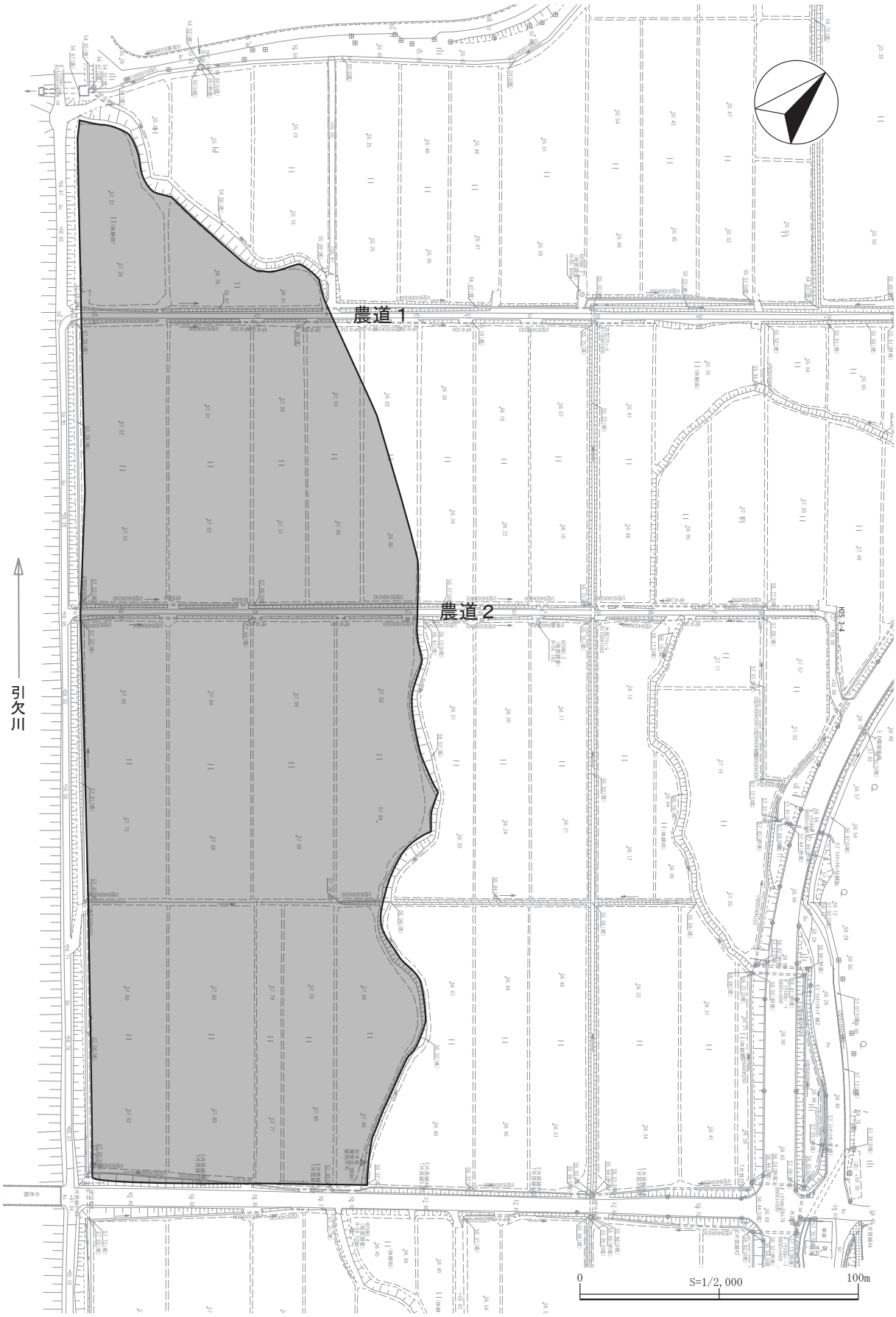
ａ　遺跡の種類

周辺の地形や検出遺構と出土遺物から、本遺跡は引欠川によって形成された自然堤防上に立地する平安時代の集落跡と推定される。

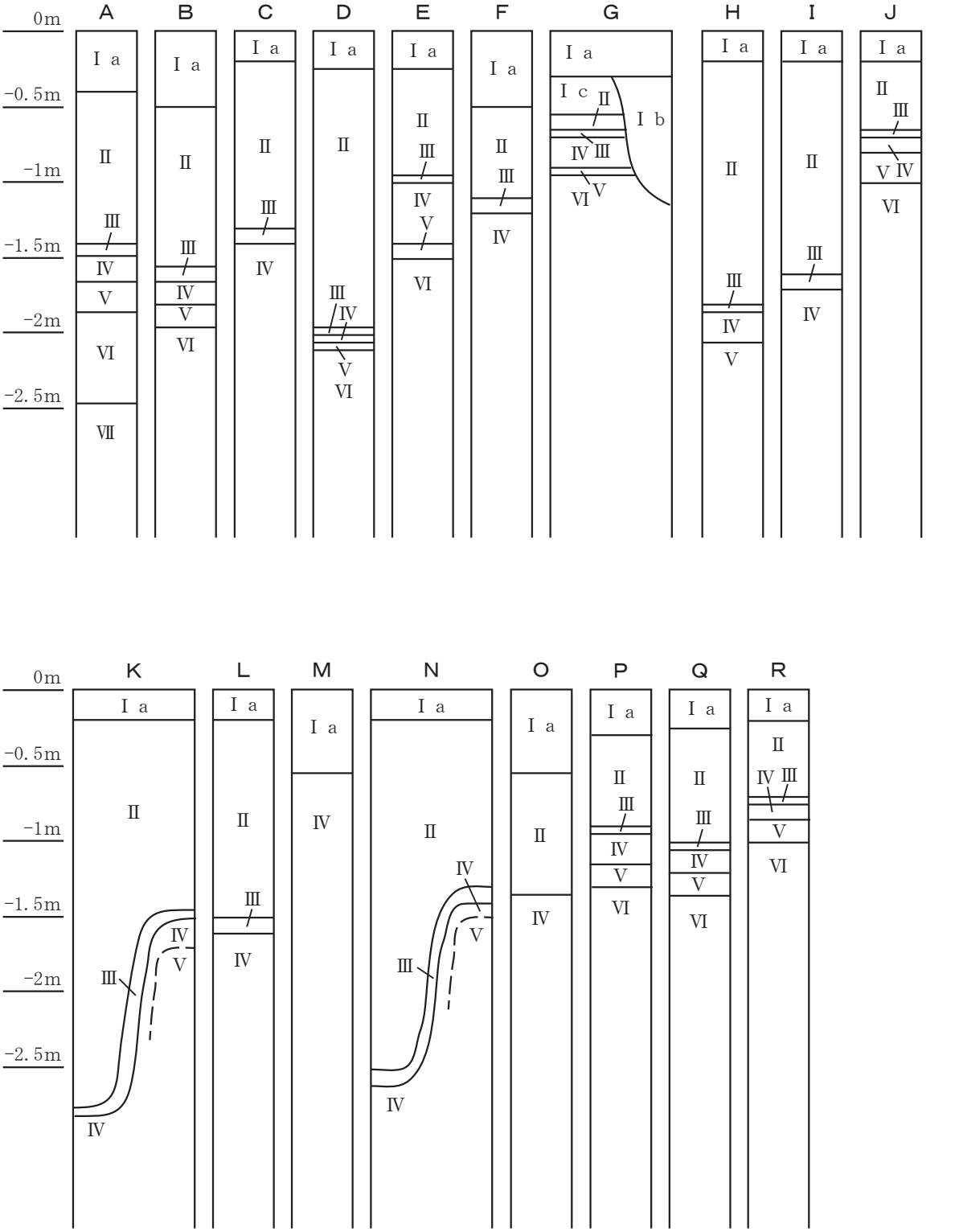
ｂ　遺跡の範囲と工事区域

遺跡の広がりは、北側の旧引欠川による浸食の影響が見られない範囲から南は現引欠川の堤防基底部に至る調査対象範囲の全域に及ぶと考えられる。本発掘調査必要範囲は、今年度対象部分の全域にあたる15,300㎡（第34・36図参照　農道２より西側）である。なお、この本発掘調査必要範囲は、東側の未調査部分にも広がっている可能性が極めて高い。

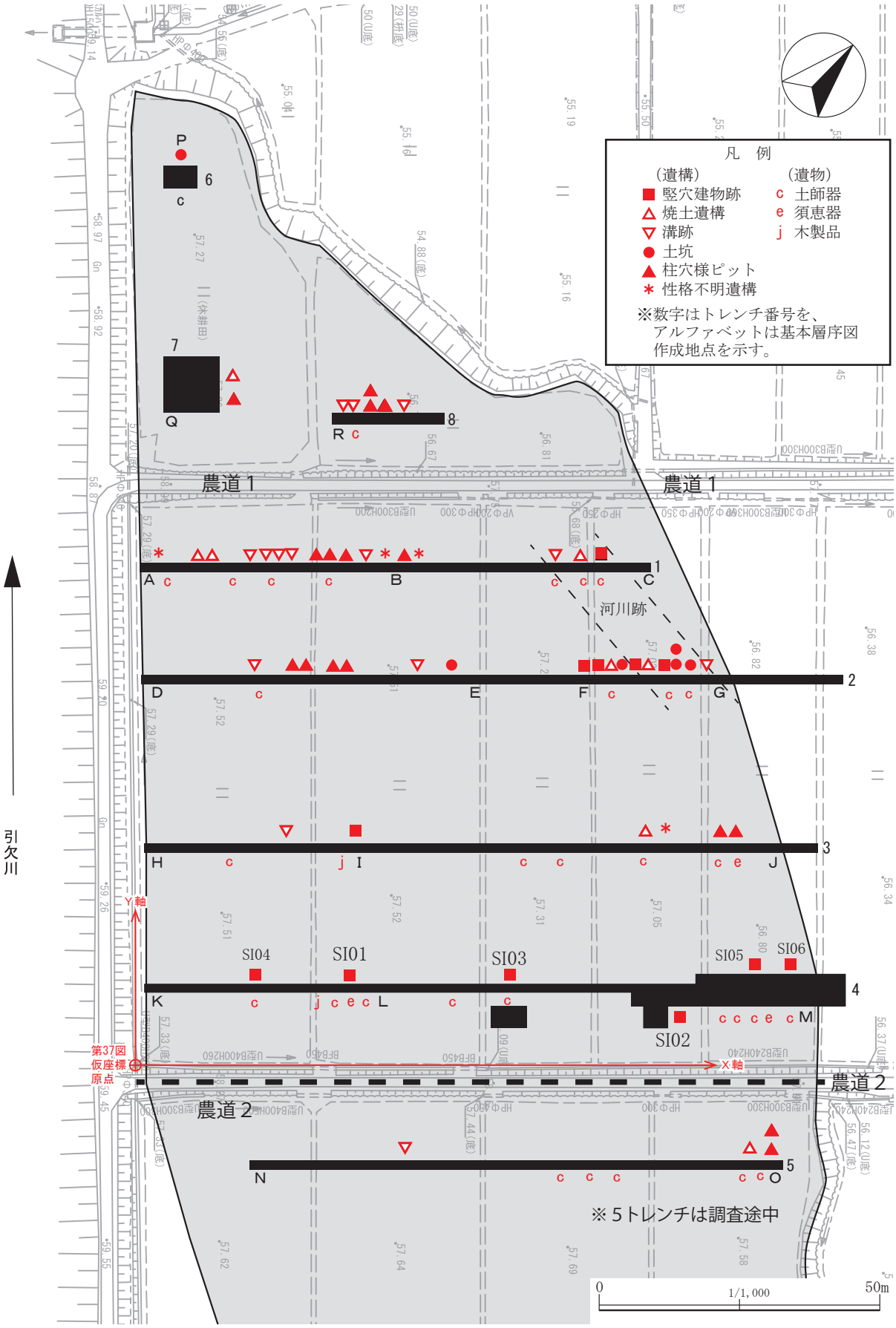
第33図　片貝家ノ下遺跡位置図



第34図　片貝家ノ下遺跡推定範囲図



第35図　片貝家ノ下遺跡基本層序図



第36図　片貝家ノ下遺跡確認調査結果図

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、焼土遺構、溝跡等の平安時代に属する遺構が検出されると予想される。竪穴建物跡は数十棟以上が見込まれ、大規模な集落跡の可能性が考えられる。竪穴建物跡の中には、上屋構造を残すものも一定数含まれることが想定される。その他、遺構分布密度が比較的低い範囲では、水田・畑等が検出される可能性がある。遺物は土師器、須恵器、木製品、建築部材、鉄製品が中コンテナで100箱以上出土すると予想される。なお、これらの推測値は、未調査部分における確認調査の結果内容によって、さらに増大する可能性がある。

10　４トレンチ検出埋没建物跡（ＳＩ０１・０２・０３）についての調査記録（第37図）

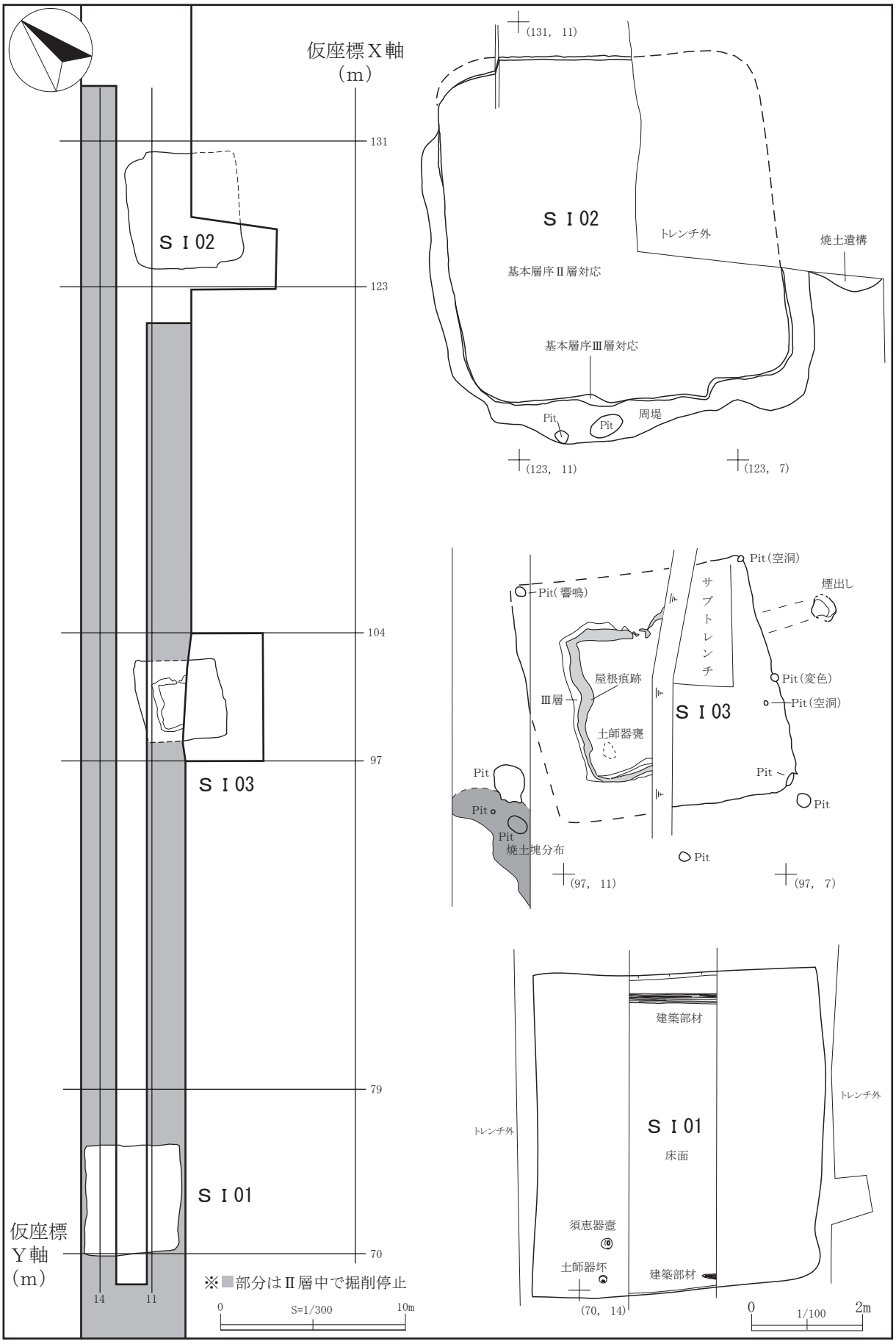
４トレンチからは、竪穴建物跡６棟が検出された。このうちの３棟（ＳＩ０４・０５・０６）は、埋土にＶ・Ⅵ層由来の粘土塊を多く含み、建物の廃棄に伴い一気に埋め戻しが行われたと判断される。残りの３棟（ＳＩ０１・０２・０３）の埋土には埋め戻しの痕跡が認められず、十和田火山の噴火に伴う堆積物によって埋没している。３棟は、北からＳＩ０２、ＳＩ０３、ＳＩ０１の順に位置する。このうち、ＳＩ０２に関しては、壁から床面直上にかけて大湯軽石（Ⅲ層）が数㎝堆積し、その上を火山泥流堆積物であるシラス（Ⅱ層）が覆っているため、厳密に言えば、十和田火山が噴火した時点ですでに上屋がない状態であったと推測できる。つまり、噴火時には廃棄されていた可能性が高いといえる。他の９棟の竪穴建物が全て埋め戻されている状況から、建物の解体（部材の撤去）から埋め戻しに至る廃棄（更地化）に向けた作業（期間）中に被災した可能性も否定できない。以上から、居住時に火山泥流に飲み込まれた竪穴建物は、ＳＩ０１とＳＩ０３の２棟ということになり、十和田火山の噴火の影響で廃棄せざるを得なかった建物と考えられる。以下に現時点での知見により、３棟の竪穴建物の概要を記述する。

①**ＳＩ０１**（第38図　写真７～10）

Ⅱ層掘削中に粘土塊を含む灰黄褐色土の広がり（後に周堤と判明）を確認し、周辺の精査により竪穴建物跡であることが判明した。長軸（北東－南西）5.9m、短軸（北西－南東）5.2m、旧地表面から床面までの深さは0.7mである。南西隅だけ上面が撹乱の影響を受けているが、幅６ｍのトレンチ内で竪穴部の平面形の全容が確認できる。竪穴周辺のⅣ層（旧地表面）上には、竪穴構築時の掘削土を盛土した最大高40㎝の周堤が巡り、その直上にはⅢ層（大湯軽石）が堆積している。竪穴内部は、火山泥流堆積物（Ⅱ層）で充填されている。壁際には垂直方向の堆積層（２～５層）が認められ、壁板や柱材などの痕跡と考えられる。床面はⅥ層中にあり、グライ化し締まりは弱く、張り床部分は確認できない。床面直上に厚さ３㎜程度の黒色の未分解の有機質層がある。その直上にⅡ層が厚く堆積するが、Ⅱ層最下部には厚さ５㎜程度の酸化鉄の凝集沈着層が形成されている。床面付近でわずかな湧水があり、時間経過とともにトレンチ壁面（Ⅱ層）の浸食崩落をもたらす。北壁から20㎝離れた床面には、幅16㎝、厚さ4.5㎝の板材が壁と平行に設置されている。これと対象の位置にある南壁床面からも腐食が著しい木材が出土している。この他、中央部からも脆弱な細木が出土している。

遺物は、床面から土師器の坏、箸や用途不明の木製品が出土した。これとは別に床面から1.1～1.2ｍの高さの埋土中から重ねて伏せた状態の土師器坏２個体、須恵器壺１個体が出土した。これらは、その出土状態から吊り棚等に収納されていた可能性が考えられる。他にⅡ層からの出土遺物はない。

床面に大湯軽石が堆積していないことから、被災時には上屋が残存していたと想定される。その痕



第37図　片貝家ノ下遺跡４トレンチＳＩ０１～０３竪穴建物跡位置図

跡は本調査で使用した重機によるⅡ層上部の掘削工程で損なわれてしまった可能性が高いが、本遺構東側のトレンチ境界に入れたサブトレンチで、建物の壁か屋根材の痕跡と考えられる土層を確認した。これより東では、Ⅱ層内における軽石の含有量が多くなり、周辺Ⅱ層と判別できることから、軽石の含有量が多い部分は入口に伴う構造もしくは付設する建物内に滞留した堆積層である可能性が考えられる。これらの広がりは、４トレンチ東側のⅡ層上面の精査で確認することが可能とみられる。

②ＳＩ０２（第37図　写真11）

Ⅳ層上面で粘土塊を含む暗褐色土の広がり（後に周堤と判明）を確認し、周辺の精査により竪穴建物跡であることが判明した。長軸（北東－南西）6.2m、短軸（北西－南東）5.9m、確認面から床面までの深さは0.6m程である。遺構確認作業により全体の約75％の平面形を現した。南壁の一部にはクランク状の小さな屈曲があるが、平面形は概ね方形と推測される。遺構埋土はⅡ・Ⅲ層で占められ、これを縁取るように遺構構築時の掘削土を盛土した周堤が巡る。北壁の一部を掘削したところ、壁から床面にかけてⅢ層が堆積し、その上にⅡ層が堆積している状態を確認した。また、東壁から１mほど東で焼土遺構を確認したが、本遺構との関係は不明である。

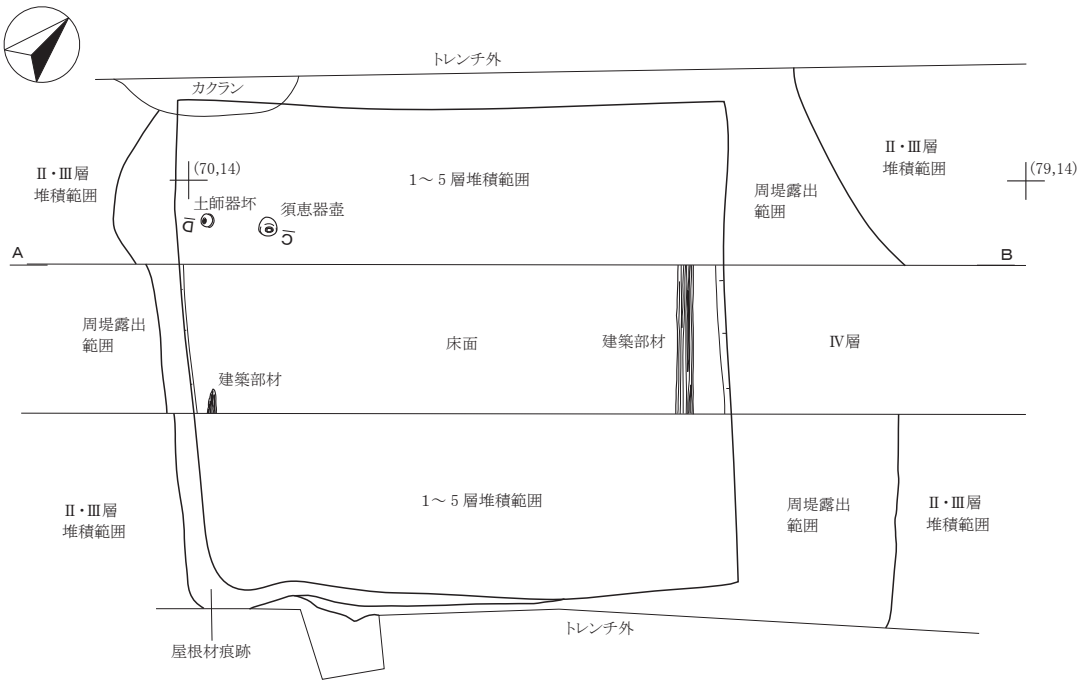
先述したように、十和田火山噴火時には上屋がない状態で、建物としての機能は失われていたと推定できる。本竪穴床面高はＳＩ０１・０３より20～40㎝高く、周辺のⅡ層が極端に薄い状況から、当地周辺は旧地形が高く河川による浸食や耕地整理等の影響を受けやすい場所にあるといえる。

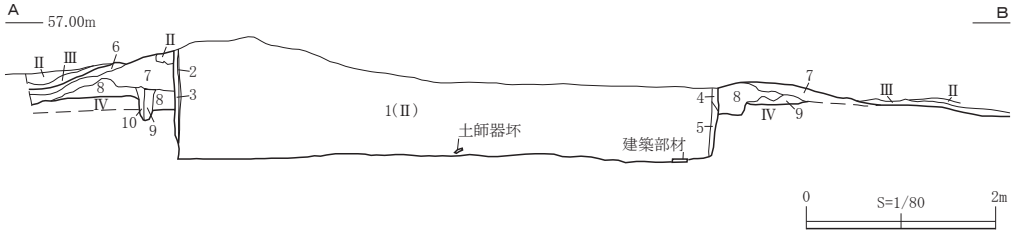
③ＳＩ０３（第39･40図　写真３～６）

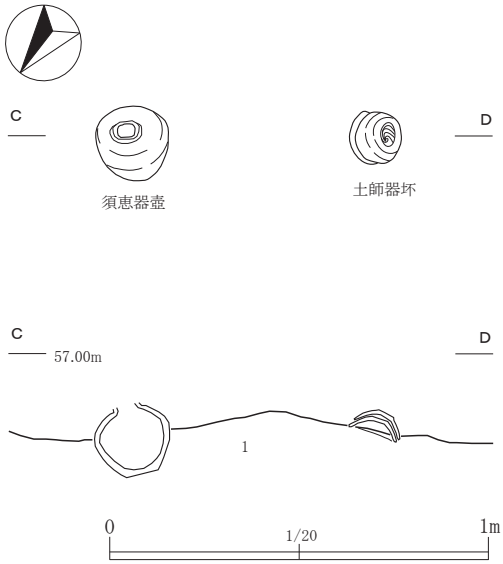
Ⅳ層上面で本竪穴建物跡の西壁のラインを確認し、東壁想定部分の掘削で方形状の平面形を推定できたため、竪穴建物跡と判断した。その後、遺構内のⅡ層上面及び埋土断面の精査により、屋根の形状・勾配を示す土層を平断面で確認できたため、屋根の形状を残す埋没建物跡であることが判明した。長軸（北東－南西）4.2m、短軸（北西－南東）4.2m、確認面から床面までの深さ0.7～0.8mである。竪穴の周囲には、竪穴構築時の掘削土を盛土した最大高30㎝ほどの周堤が巡っている。

竪穴埋土は、Ⅱ層が中心で上部に軽石が集中している。床面上には、未分解の有機質層が１㎝ほどの厚さで堆積している。壁周辺には径10㎝ほどの空洞（Pit１・３）のほか、叩くと響鳴する部分（Pit５）などがあり、これらは、柱材が腐食し空洞化している部分と推測される。この他に、周囲と色調が異なり締まりが弱い部分（Pit２）、ピット状の平面形（Pit４・６～10）などがあり、これらも柱の痕跡と推測される。壁際には、壁材の設置に伴う裏込め土と考えられる堆積土（第40図23層等）が確認できる。東壁から東に１mほど離れた地点では、径0.4mのⅡ層の落ち込みを確認した。周辺が焼土化しているためカマドの煙出し部分とみられる。これに近い東壁付近のトレンチ壁面では、粘土部分と土師器甕の底部が確認されている。これらはカマドとそこに据えられていた土器の一部とみられる。

上屋構造については、屋根の傾斜を示す幅６～７㎝の灰黄褐色土層（第40図27層）が、40度前後の角度（南壁45°西壁36°北壁25°）で周堤からⅡ層上面まで直線的に延びている。本層には断層状のズレのような部分（第40図27層上面）が認められ、下位に設置されたと想定される構造材等の形が反映されている可能性がある。本層中にはⅤ・Ⅵ層を由来とする小塊が含まれ、下端部で周堤と接している。本層直上には、降下軽石層であるⅢ層が５㎝前後の厚さで堆積し、この上にⅡ層が堆積している。第40図27層直下（建物内）には、第40図１層（Ⅱ層）とは異なる火山灰層（第40図25層）が本層に対応する形で堆積している。



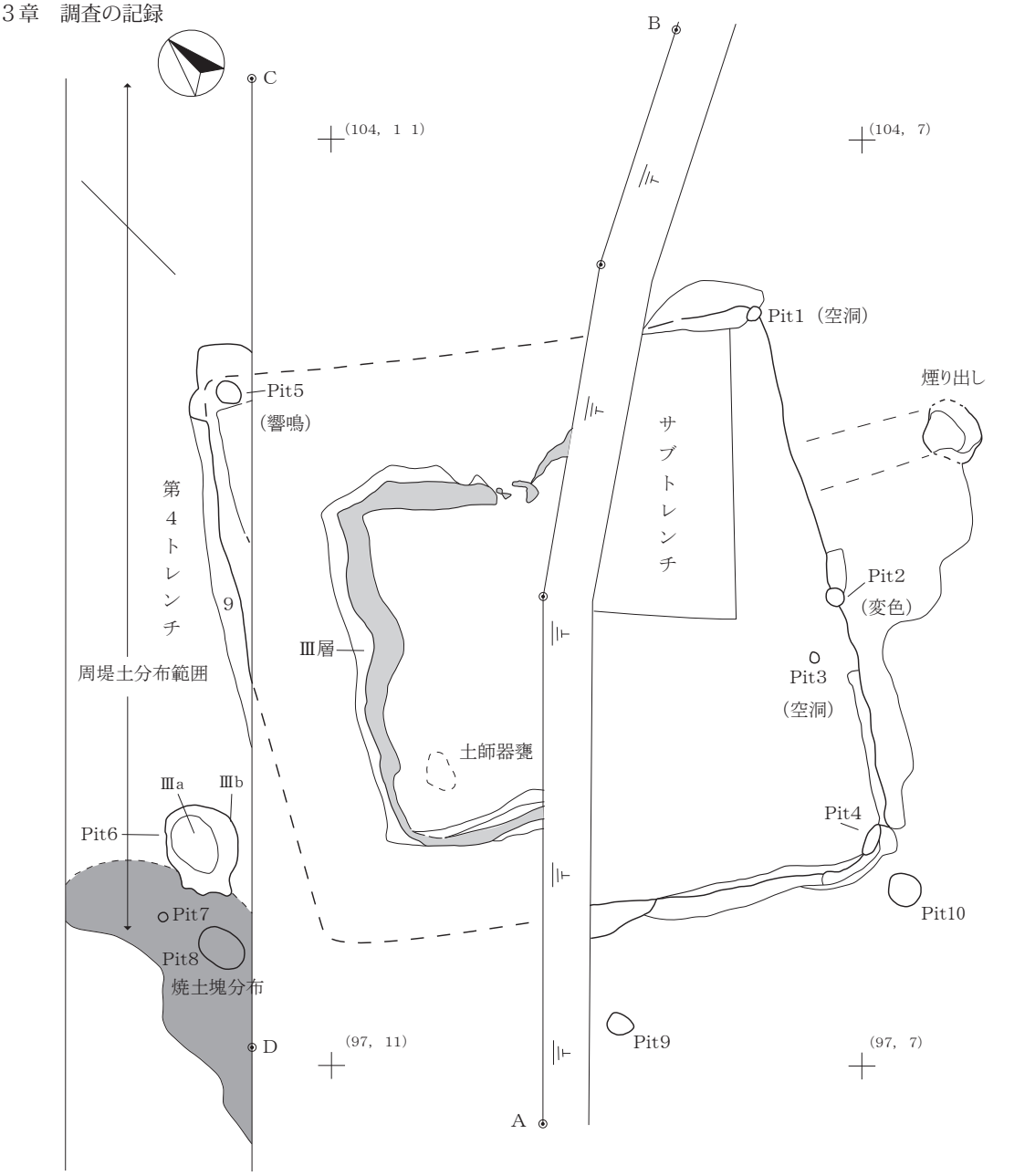




ＳＩ０１　SP.A－B、SP.C－D

1　Ⅱ層
2　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　軽石多く含む
3　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　軽石少量含む　※所々褐灰色（10YR5/1）化
4　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　軽石多く含む
5　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　軽石少量含む　※所々褐灰色（10YR5/1）化
6　褐灰色（10YR4/1）粘土質シルト　Ⅴ・Ⅵ層由来土10%、炭化物（径10mmほど）５%含む
　※屋根痕跡か
7　暗灰黄褐色（2.5Y4/2）シルト～粘土質シルト　Ⅴ・Ⅵ層塊状20%混じる
8　灰黄褐色（10YR4/2）粘土質シルト　Ⅴ・Ⅵ層由来土30%含む
9　灰黄褐色（10YR4/2）シルト
10　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　Ⅴ・Ⅵ層由来土塊状に少量混じる

第38図　片貝家ノ下遺跡４トレンチＳＩ０１竪穴建物跡

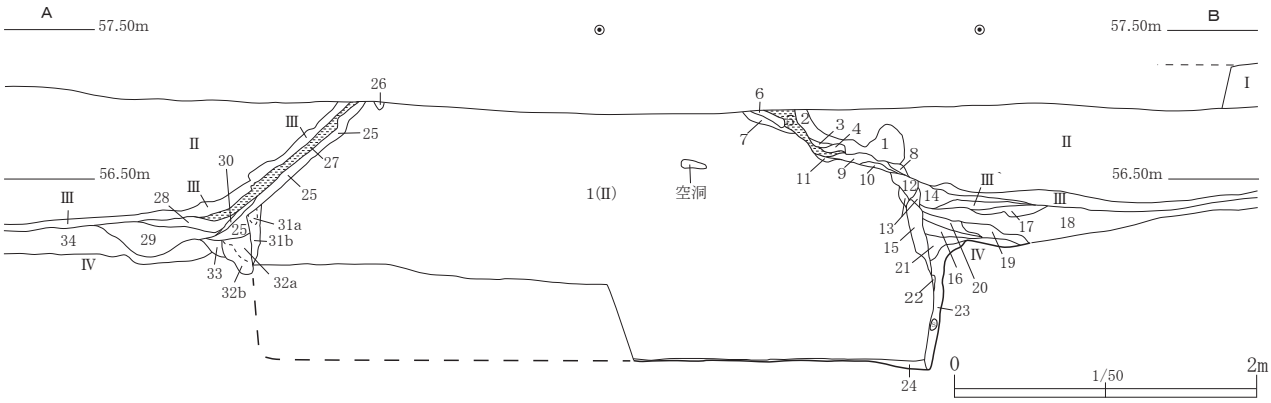


ＳＩ０３　SP.C－D

1　黒褐色（10YR3/1）シルト　※植物遺体の腐食か
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト（シラス）
3　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト（シラス）Ⅲ層混じる
4　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　Ⅴ層由来土塊（径５㎜以下）５％含む
5　黒褐色（10YR3/2）粘質シルト　Ⅴ層由来土塊 10％含む
6　黒褐色（10YR3/2）粘質シルト　Ⅴ層由来土塊（径 10㎜ほど）25％含む
7　灰黄褐色（10YR6/2）粘土　※火山灰が粘土化したものか
8　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　Ⅴ層由来土塊（径５㎜以下）20％含む
9　にぶい黄橙色（10YR6/3）砂質シルト（シラス）軽石多く含む

0　1/50　2m

第39図　片貝家ノ下遺跡４トレンチＳＩ０３竪穴建物跡



1　Ⅱ層　※上部に軽石を多く含む
2　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）　軽石（径５～30㎜）多量含む
3　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）
4　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）　軽石少量含む
5　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）　※屋根のラインか
6　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　炭化物（径５～10㎜）１％含む　※遺材痕跡か
7　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質シルト（シラス）軽石（径10㎜前後）15～20％含む
8　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）Ⅲ層由来火山灰混じる
9　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）　軽石少量含む
10　にぶい黄褐色（10YR5/4）浮石　※Ⅲ層の流れ込みか
11　暗灰黄褐色（2.5Y5/2）砂質シルト（シラス）　軽石（径10㎜前後）15～20％含む
12　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト（シラス）
　粗鬆（ぼそぼそ）シラスが濁った感じ　※構造材腐食痕か
13　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）　軽石極小含む
14　黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト（シラス）
15　灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト（シラス）軽石多い部分あり
　粗鬆（ぼそぼそ）シラスが濁った感じ
　※構造材腐食痕か
16　灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト（シラス）軽石（径15㎜以下）多量含む
17　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土斑状20％混じる
18　褐灰色（10YR4/1）粘質シルト　Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層由来土の混合土
　炭化物（径10㎜）１％含む
19　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層由来土の混合土
20　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅴ層由来土塊（径10㎜前後）10％含む
　木質（遺材？）含む
21　黒色（10YR1.7/1）粘質シルト　Ⅴ層塊（径10～20㎜）10％含む
22　灰黄褐色（10YR4/2）シルト
23　黒色（10YR1.7/1）粘質シルト～粘土　Ⅴ層由来土塊（径10㎜前後）15％含む
24　黒色（10YR1.7/1）粘質シルト　炭化物含む
25　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質シルト（シラス）軽石（径10㎜前後）15～20％含む
26　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　炭化物（径５～10㎜）１％含む 遺材痕跡か
27　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土小塊少量含む
　炭化物（径約５㎜）１％含む ※屋根材の痕跡か
28　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土塊（径10㎜前後）20％含む
　※Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層由来土の混合土
29　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土塊（径10～30㎜）30％含む
　※Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層由来土の混合土
30　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　Ⅴ・Ⅵ層由来土５％混入
　※垂木材等の腐食痕跡か
31a　灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト（シラス）軽石多量含む
31b　灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト（シラス）軽石少量含む
32a　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅳ層由来土５％混じる
32b　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土塊30％混じる
33　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土50％混じる
34　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　Ⅵ層由来土塊25％含む
　※Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層由来土の混合土

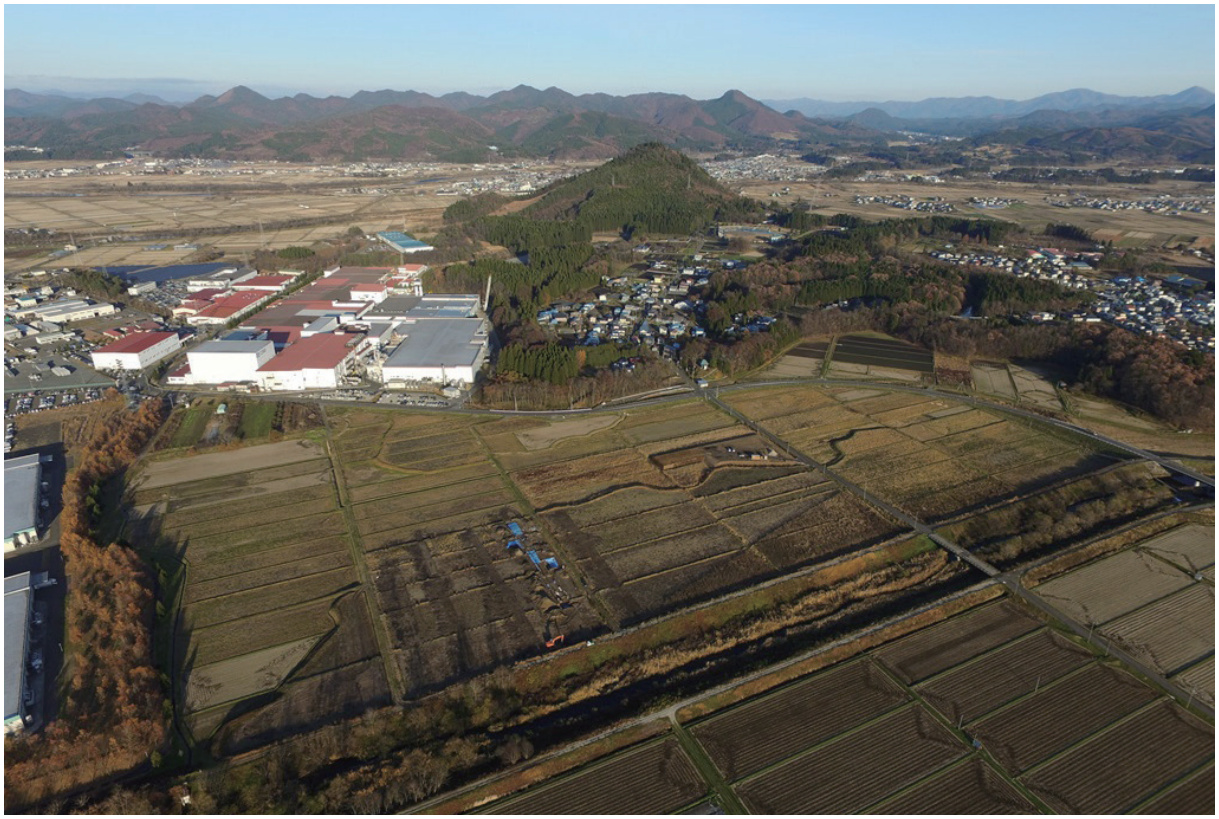
第40図　片貝家ノ下遺跡４トレンチＳＩ０３竪穴建物跡A-B断面図

床面上1.6～1.7mの高さから、横倒し状態の土師器甕１個体が検出された。その出土状態からＳＩ０１同様、吊り棚等に収納されていた可能性が考えられる。他にⅡ層中からの出土遺物はない。

④小結－本遺跡埋没建物についての留意事項－

Ⅱ層に埋もれた柱材は、湧水がない限り、そのほとんどが腐朽してしまう可能性が高いことが今回の調査で明らかとなった。Ⅱ層が汚れたように見える部分や、しまりが弱く粗鬆化している部分、空洞になっている部分等その腐朽痕跡は多様である。この他、ＳＩ０１・０３では、吊り棚の存在を窺わせる遺物の出土状態を確認した。共に南西コーナーに近い位置で、床面から１m以上の高さで土器を確認している。土器はまとまった状態で出土しているため、その場所に収納・保管されていた可能性がある。そこには棚板の存在が想定される。

以上のように、Ⅱ層（シラス）に埋没した環境下で進行する木材・木製品などの有機質遺物の腐朽過程と腐朽痕跡の研究・解明が、埋没建物跡研究の進展に大きな影響を与えるものと考えられる。



１．遺跡遠景（南西から）

２．遺跡近景（南西から）

３．４トレンチＳＩ０３検出状況（南から）

４．４トレンチＳＩ０３埋土断面検出状況（南東から）

５．４トレンチＳＩ０３屋根構造断面検出状況（南東から）

６．４トレンチＳＩ０３Ⅱ層上面屋根検出状況（南西から）

７．４トレンチＳＩ０１埋土断面（南東から）

８．４トレンチＳＩ０１検出状況（南から）

９．４トレンチＳＩ０１埋土遺物出土状況
（北西から）

10．４トレンチＳＩ０１埋土遺物出土状況
（北西から）

11. ４トレンチＳＩ０２検出状況（西から）

12. ４トレンチＳＩ０４埋土断面（南東から）

13. ３トレンチＳＩ０１検出状況
（南東から）

14. ３トレンチＳＩ０１遺材出土状況（南東から）

15. ２トレンチ竪穴建物跡検出状況（南西から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	いせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第502集
編著者名	高橋忠彦　村上義直　巴 亜子
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20　　TEL　0187-69-3331
発行機関	秋田県教育委員会
発行年月日	西暦2016年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
トクラ遺跡	秋田県雄勝郡 東成瀬村 椿川字トクラ4-1	054640	464-68-25	39° 03′ 82″	140° 73′ 18″	20150601 ～ 20150612	6,800㎡	成瀬ダム建設事業
新波遺跡	秋田県秋田市 雄和字新波 竹ノ花207外	052019	201-34-66	39° 31′ 51″	140° 13′ 53″	20151105 ～ 20151113	4,300㎡	雄物川中流部河川改修事業
片貝家ノ下遺跡	秋田県大館市 比内町片貝 字家ノ下17外	052043	204-12-54	40° 13′ 17″	140° 33′ 05″	20150929 ～ 20151124	15,300㎡	大館工業団地造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
トクラ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡５棟 土坑13基 溝跡１条	縄文土器	縄文時代早期～前期・後期の集落跡
新波遺跡	散布地 散布地 散布地	縄文時代 古代 近世	溝跡４条、柱穴様ピット３基	縄文土器、石器 土師器、須恵器 近世磁器	確認調査範囲内は本調査の必要無し
片貝家ノ下遺跡	集落跡	平安時代	竪穴建物跡12棟、土坑６基 焼土遺構７基、溝跡10基 河川跡１条、	土師器、須恵器 木製品	墨書土器や、木製品には曲げ物がある

要約	平成27年度は、19件の詳細分布調査と３件の遺跡確認調査を行った。その結果、トクラ遺跡と片貝家ノ下遺跡については本調査が必要と判断した。片貝家ノ下遺跡については、西暦915年の十和田噴火の火山泥流に覆い尽くされた集落跡であることがわかった。今後の遺跡の取り扱いについては、開発事業との調整に慎重を期す。

秋田県文化財調査報告書第502集
遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行　平成28年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電 話（0187）69-3331
FAX（0187）69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王三丁目１番１号
電 話（018）860-5193